

令和7年度四日市スマートリージョン・コア推進協議会

第1回幹事会

開催日時 令和7年8月7日（木）10：00～12：00
開催場所 四日市商工会議所 3階大会議室（オンライン併用）

1 議事次第

- ・議決事項 第1号 令和6年度歳入歳出決算について・・・・・・・・・・資料1
- ・議題 第1号 今年度スケジュールについて・・・・・・・・・・資料2
- ・議題 第2号 令和6年度補正・令和7年度スマートシティ実装化支援事業について・・・・・・・・資料3
- ・議題 第3号 スマートシティ実装化支援事業の進捗状況報告・・・・・・・・・・資料4
- ・議題 第4号 ワーキンググループ（WG）の実施報告・・・・・・・・・・資料5、6

2 各議題の説明

議決事項 第1号 令和6年度歳入歳出決算について

四日市スマートリージョン・コア推進協議会に係る令和6年度収支決算について、協議会の承認を得ようとするものです。詳細は資料1をご参照ください。

議題 第1号 今年度のスケジュールについて

今年度のスケジュール案を状況に合わせて更新しております。詳細は資料2をご参照ください。

議題 第2号 令和6年度補正・令和7年度スマートシティ実装化支援事業について

本年3、5月に、国土交通省都市局公募の「令和6年度スマートシティ実装化支援事業（補正予算）」及び「令和7年度スマートシティ実装化支援事業」に、四日市市中央通りにおける実証計画案を提出し、補助事業として採択されました。詳細は資料3をご参照ください。

議題 第3号 スマートシティ実装化支援事業の進捗状況報告

前回（令和6年度第3回）幹事会以降、スマートシティ実装化支援事業の進捗について説明します。詳細は資料4をご参照ください。

議題 第4号 ワーキンググループ（WG）の実施報告

本年度、データプラットフォームWG及びモビリティWGを各々1回開催いたしました。WGの実施状況についてご説明します。詳細は資料5、資料6をご参照ください。

3 資料

資料0：令和7年度第1回幹事会次第（本紙）

資料1：令和6年度歳入歳出決算について

資料2：今年度のスケジュールについて

資料3：令和6年度補正及び令和7年度スマートシティ実装化支援事業採択について

資料4：スマートシティ実装化支援事業の進捗状況について

資料5：データプラットフォームWGの実施状況について

資料6：モビリティWGの実施状況について

別添1：出席者名簿

別添2：席次表

以上

令和6年度 歳入歳出決算書(案)

【歳入】 (単位：円)

款	項	目	予算現額	決算額	繰越額	不用額	備考
国庫補助金	補助金	補助金	33,000,000	23,000,000	10,000,000	0	令和6年度当初事業分スマートシティ実装化支援事業補助金
構成員負担金	負担金	負担金	15,274,000	6,036,700	9,000,000	△ 237,300	令和6年度当初事業分四日市市負担金
繰越金	繰越金	繰越金	49,482,000	49,474,700	0	△ 7,300	令和5年度補正事業分スマートシティ実装化支援事業補助金 令和5年度補正事業分四日市市負担金
諸収入	雑入	雑入	0	464	0	464	利息
合 計			97,756,000	78,511,864	19,000,000	△ 244,136	

【歳出】 (単位：千円)

款	項	目	予算現額	決算額	繰越額	不用額	備考
運営費	会議費	会議費	0	0	0	0	
	事務費	事務費	0	0	0	0	
事業費	事業費	事業費	97,756,000	78,511,400	19,000,000	△ 244,600	令和5年度補正事業分委託料事業①②③ 令和6年度当初事業分委託料事業①④
予備費	予備費	予備費	0	0	0	0	
合 計			97,756,000	78,511,400	19,000,000	△ 244,600	

決算額の差額(利息分)464円については、全額翌年度事業に繰り越します。

議決事項 第1号 令和6年度 歳入歳出決算書（案）経費内訳

(単位：円)

事業名	実行計画に基づく事業に要する経費	
	国庫補助金	四日市市負担金
令和5年度補正事業分		
❶利活用空間活性化ツールの構築	5,000,000	4,372,000
❷四日市版MaaS(Phase-1)の構築	5,000,000	20,190,000
❸バーチャル空間におけるコミュニケーション・ツールの構築	5,000,000	9,912,700
小 計	15,000,000	34,474,700
令和6年度当初事業分		
❶利活用空間活性化ツールの構築	12,550,000	6,036,700
❹中央通りにおける3D都市モデルを活用したプランニング／マネジメント・ツールの構築	10,450,000	0
小 計	23,000,000	6,036,700
合 計	78,511,400	

令和6年度 監査報告書

四日市スマートリージョン・コア推進協議会に係る令和6年度収支決算について、関係帳簿及び証拠書類を調査した結果、適正に処理されていることを認めます。

令和7年 6月27日

四日市スマートリージョン・コア推進協議会

監査委員 株式会社三十三銀行

白井 智博 

令和6年度 監査報告書

四日市スマートリージョン・コア推進協議会に係る令和6年度収支決算について、関係帳簿及び証拠書類を調査した結果、適正に処理されていることを認めます。

令和7年 6 月 30 日

四日市スマートリージョン・コア推進協議会

監査委員 四日市商工会議所

山下 三夫



- 【利活用空間活性化】スマートシティポータルサイトにおけるデータ可視化サービスの効果的なコンテンツの見せ方の検証
 【四日市版MaaS】四日市版MaaSのプロトタイプによるまち歩きを促進するサービスの効果を検証
 【沿道空間利用マネジメントシステム】利活用空間ウェブサイトにおいてマッチングを促進するために有用な情報の検証

■ 実証実験の内容

	実験の仮説	令和5年度補正の実施内容
① 利活用空間活性化ツールの構築	- 市民および民間事業者のニーズに即したデータ提供が利用向上につながる。 - 効果的なデータの見せ方が利用向上につながる。	1) AIカメラの精度検証(2回目) データ活用の前提として、収集するデータの精度を確認することが必要のため、令和5年度に設置したAIカメラ(歩行者用8台、車両用4台)について、取付角度等の調整を行った上で精度検証を行った(2回目)。また、検知率に合わせたデータ活用方法の検討を行った。 2) データダッシュボードにおけるコンテンツの見せ方実証実験の実施 データダッシュボードについて、データプラットフォームに蓄積されている過去データの適切な表示方法について複数案を作成する。市民及び事業者をモニターとし、彼らのニーズと課題を把握したうえで、適切な表示方法を検証する。具体的には、多世代の20~30人の市民ユーザーおよび現地で事業を展開する可能性のある事業者(キッチンカー、イベント等)に、実際に複数案のデータダッシュボードをスマホなどで体験してもらい、アンケート調査にて評価する。
② 四日市版MaaSの構築	- 交通サービスに加え、イベント情報・駐車場情報の提供が市民・来訪者にとってインセンティブとなる。 - 地域の店舗で利用できるクーポンと連携することにより回遊性向上につながる。	四日市データプラットフォームと連携する四日市版MaaSのプロトタイプを構築、来訪者を主なターゲットとして「まち歩き」を促進する交通サービス、経路探索機能、イベント情報、駐車場の情報、クーポンの提供等を行う。 1) 四日市版MaaS利用者の滞在・場所に係るデータ取得 地区内のスポット回遊に応じてポイントが貯まるデジタルポイントラリーを実施し、利用者の移動履歴データ等を四日市版MaaSを通じて取得することにより、地区内の回遊状況を把握する。 2) 四日市版MaaS利用者へのアンケートの実施 四日市版MaaSのアンケート機能を用いて、下記を検証する。 - 活用したモビリティサービス(鉄道、バス、自動運転バス、こにゅうレンタサイクル等) - 施設・名所の認知度向上
③ バーチャル空間におけるコミュニケーションツールの構築	- オープンスペースや空き店舗等の潜在的な利用ニーズがある。 - 使いたい人と使ってほしい人のマッチングが使われない空間のポータルネットになっており、マッチングを行っていく必要がある。 - マッチングがうまくいけば、よりオープンスペースや空き店舗の利用促進につながる。	利活用空間ウェブサイト(=沿道空間利用マネジメントシステム)のベータ版を構築、アクセス環境を絞ったクローズドな環境で実証実験を行う。 1) 商店街における実証環境の構築 令和5年度の基礎調査内容に基づき、商店街関係者へのヒアリングをとおして、実際にサービスとして提供できる空間を選定したうえで、空間を使ってほしい人(運営者:市)、空間を使いたい人(出店者)を設定する。また、試行する環境条件(PCスペック等)、ユーザビリティ(システムの見た目や使いやすさ)の適正性を検証するため、ヒアリング・アンケートシートを作成する。 2) 想定される事業者へのヒアリング・アンケートの実施 商店街内の公園通りにおいて、商工会議所主催イベントとタイアップした実証実験を実施する。具体的には、出店スペース(もしくは空き店舗)の情報を2D地図に表示し、そのシステム(ベータ版)を活用して、出店者とのマッチングを行う。その後、出店者へ対してヒアリング・アンケートを実施する。

■ 実証実験で得られた成果・知見

得られた成果・知見(令和5年度補正)	成果の一部
・AIカメラ精度検証の結果 AIカメラ精度検証においては、人数カウント、混雑検知、属性検知、車両カウント、車両渋滞について各々精度検証を実施した。検証結果に基づき、適宜カメラの角度やAIカメラの検知ライン設定等を調整することにより、一定の精度が向上することを確認した。一方、検知率の上がらない場合においては、AIカメラの配置変更やデータ活用の対象から除く等の対策の必要性が示唆された。 ・データダッシュボードのコンテンツの見せ方実証の結果 データダッシュボードの見せ方について、アンケートの結果、市民ユーザーの64%、キッチンカー事業者の79%が「役立つ」という評価が得られた。以上より、効果的なデータの見せ方が利用向上につながる可能性が示唆された。一方、市民ユーザーからは、生活に直結する情報が少ないとの意見もあり、今後期待されるコンテンツとして、トイレの場所・満空、オムツ交換台情報、店舗の混雑情報、病院の空き情報等が挙げられた。以上より、市民ユーザーがスマートシティサービスの利用向上に繋げるため、よりニーズに即したデータ提供が必要であることが分かった。	AIカメラの人流の検知ライン調整の例 データダッシュボードに係るアンケート結果(上:市民ユーザー、下:キッチンカー事業者) デジタルポイントラリーの時間帯別参加者数 スポットごとのポイント獲得数 利活用空間ウェブサイトの空間探しページ システム体験会の様子
・R5年度のデジタルスタンプラリーと比較して今年度のデジタルポイントラリーにおいては交通情報等の拡充や駐車場情報等が機能として追加されており、結果として、回遊性(昨年度比114%増)やモビリティの利用機会(昨年度比97%増)、中央通り周辺の店舗・施設の認知度(昨年度比14%増)が向上した。また、デジタルポイントラリーの景品として地域の店舗で利用できるクーポンを今年度新たに導入しており、これも回遊性向上に繋がった一因と考えられる。 ・一方、MaaS利用者数に関しては昨年度比で98%増となったもののKPIは未達となった(目標:300人、結果170名)。アンケート結果からは、参加者のうち約73%が市民の方であったことから、市外からの来訪者の利用が少ないことがわかった。 ・JR四日市駅・港側への回遊性が少ないことが課題であり、それらの方面へ回遊した際のポイントを高く設定したが、結果的には参加者のうち各方面へ回遊したのは、それぞれ約31%(JR駅)、約15%(港側)に留まった。	
・利活用空間ウェブサイトに対する事前の期待度アンケート調査の結果に基づく、「中央通りの空間が活用できるようになることへ期待しますか?」という問いに対して、活動者(空間を使いたい側)の100%が期待すると答えており、中央通りの空間などのオープンスペースの潜在的な利用ニーズが明らかになった。 ・「このシステムは空間利用に役立つと感じますか?」という問いに対して、活動者の中で役立つと回答した人は73%であった。これより、空間を使ってほしい人と空間を使いたい人をマッチングするという本システムへの評価は高く、マッチングによりオープンスペースの利用促進に繋がることが示唆された。 ・一方、空間を使いたい側からは「設備面」「金銭面」「制度上の手続き」の3つをハードルに感じている人が多いことが明らかになった。 ・システムのベータ版に基づくシステム体験会においては、実際に活動者目線でシステム体験を行った結果、システムで提供されている情報項目に対して有用性の高さが示された一方、システムの操作性には課題が残った。	

【利活用空間活性化】スマートシティサービスの実空間における情報提供の有用性を実証

【デジタルインフラ台帳】地下埋設物3次元モデルデータ作成及びデータ更新の試行を通して、デジタルインフラ台帳の有用性およびアクセス環境(セキュリティ面)を実証

■ 実証実験の内容

	実験の仮説	令和6年度の実施内容
① 利活用空間活性化ツールの構築	- 災害時の即時情報提供が防災力向上に加え、サービス認知度向上につながる。 - デジタル空間に加え、実空間での情報提供がサービス利用者向上につながる。	実空間という特性を活かし、イベント情報・周辺商業施設等の情報に加え、即時的な防災・交通その他緊急情報を強調する等の変更を加え、タッチパネル型デジタルサイネージに適合するようスマートシティポータルサイトをブラッシュアップする。 具体的には、タッチパネル型のデジタルサイネージを設置し、スマートシティサービスの情報提供を通じて以下の実証を行う。なお、これらの実証は、令和6年11月に中央通り沿いにおいて開催された「賑わい創出社会実験」と同時期に実施された。 1) 災害時を想定した即時的な情報提供を行う情報伝達実験を実施 災害時を想定した情報伝達実験を開催する。その際、表示方法を3パターン程度(文字情報を大きくしたパターン、ピクト等の図を大きくしたパターン、文字情報とピクトの大きさが同程度のパターン)を設定し、被験者の行動観察及び実験後のアンケートにて検証する。 2) 実空間におけるスマートシティポータルサイト利用者数・属性を計測 実空間におけるデジタルサイネージでの情報発信の有用性について、市民を対象としたアンケートを実施した。また、平常／イベント時、時間帯によってどのような利用者がデジタルサイネージを視認するか、視認から実際にスマートシティサービスを利用するかについて利用者数及び属性についてデジタルサイネージに設置したAIカメラを用いて計測・分析し、実空間における情報提供の有用性について評価した。
④ 中央通りにおける3D都市モデルを活用したプランニング／マネジメントツールの構築	- デジタルインフラ台帳の構築が沿道建替促進につながる。 - デジタルインフラ台帳の構築が市・埋設事業者・施工者・設計者の工数削減につながる。 - クラウドサービスを利用したArcGISデータを用いることでセキュリティを確保した適切なアクセス環境の構築ができる。	過年度の構築データ(20m×20m)を拡張する形で、市民公園前の中央通り北側の延長約150m(下図A)と近鉄四日市駅西口の中央通り北側・南側の延長約50m(下図B)の2つのエリアを対象としたモデルデータを作成し、下記実証を行う。 1) データ更新の試行およびアクセス環境試行実験を実施 モデル構築を行った上で、クラウドサービスにArcGISデータを格納し、利用者(市および埋設事業者)のみが閲覧できる環境を構築し、データ更新を試行する。それらを体験した市・埋設物事業者等へアンケートを実施して、セキュリティ上の課題について検証する。 2) データ更新の試行によるデジタルインフラ台帳の有用性の評価 デジタルインフラ台帳がない場合の工数(既往の検討・調整フローにおいて各工程の所要時間)を設定した上で、市および埋設事業者、施工者、設計者によるデータ更新を行う。既往の検討・調整フローとデジタルインフラ台帳を使用した場合との工数の比較を行うことで、デジタルインフラ台帳の有用性を評価する。また、デジタルインフラ台帳整備による沿道建替促進効果について、不動産事業者にアンケートを行って検証する。



■ 実証実験で得られた成果・知見

得られた成果・知見(令和6年度)	成果の一部
・災害時を想定した情報伝達実験の結果 災害情報の内容については、被験者の95%以上から「分かりやすい」という回答が得られ、表示方法について右記の3パターンを表示したところ、約80%以上から「文字情報を大きくしたパターン」が最も見やすいという結果が得られた。さらに、デジタルサイネージ上にQRコードを表示させ、避難場所へのルートが確認できるか実証を行った。その結果、被験者の94%がQRコードの読み込み(すなわち行動開始)に成功、かつ80%以上が警告アラームが鳴ってから30秒以内にQRコードを読み取る(迅速な行動開始)ことに成功した。 以上より、災害時の即時情報提供が市民の防災力向上に寄与していることが分かった。また、このような災害情報コンテンツの情報発信方法として、「スマートシティポータルサイト」を選択した方が多く、スマートシティのサービス認知度向上に繋がる示唆が得られた。 ・デジタルサイネージ視認者の人数・属性計測および行動観察結果 デジタルサイネージを通じた情報発信については、被験者の90%以上が「役立つ」と回答しており、実空間での情報提供の有用性が確認された。 また、デジタルサイネージに搭載したカメラを用いて、通行する歩行者のうちサイネージを視認した人の割合と、さらに画面にタッチしてスマートシティサービスを利用した人の割合を測定した。結果として、通行する歩行者(2,206人)の約26%(KPI: 70%以上)が視認、約0.6%(KPI: 5%以上)がスマートシティサービスを利用するという結果となり、実空間での情報提供がスマートシティサービス利用向上には十分につながっていないことが明らかとなった。 ・デジタルインフラ台帳のアクセス・セキュリティ環境について 埋設物事業者の77%(13人中10人)が、デジタルインフラ台帳の利用環境として、「個別にArcGIS Onlineを契約して利用する」ことを選択した。さらに、ArcGIS Onlineにてデジタルインフラ台帳のアクセス権(ID・パスワード)を利用者のみが取得し、自社端末からデジタルインフラ台帳の閲覧・データダウンロードを行えることを確認した。以上より、ArcGISデータを用いた適切なアクセス環境が構築できることが分かった。 ・デジタルインフラ台帳整備の有用性について デッキの施工における地下埋設物の移設計画検討において、従来の2Dによる埋設物平面図を用いた場合と、3Dモデル(デジタルインフラ台帳)を用いた場合の工数を比較し、デジタルインフラ台帳利用により約30%の工数(20時間/65時間÷0.3、KPI: 80%)、すなわち7割の削減効果を確認した。また、デジタルインフラ台帳を用いた埋設物移設検討の有効性に対するアンケート調査を行い、平均で4.32点の結果(良い:5点～悪い:1点)を得た。以上より、デジタルインフラ台帳の構築が、関係者の工数削減に繋がることが分かった。 ・沿道建て替え促進効果の検証について デジタルインフラ台帳を用いた埋設物移設検討の有効性に対するアンケート調査を行い、平均点は4.20点(良い:5点～悪い:1点)となり、特に建替時のスピードアップに繋がるとの意見が示された。以上より、デジタルインフラ台帳の構築が、不動産事業者にとって建替促進に繋がる可能性が示唆された。	成果の一部 災害情報表示に係るアンケート結果 デジタルサイネージ付属カメラの映像 デジタルサイネージの設置状況 実証時のデジタルサイネージ等の配置図 構築したデジタルインフラ台帳の画面イメージ 2Dの埋設物平面図による検討(上)と3Dモデルによる検討(下)

■ R7年度のスケジュールについて

			令和7（2025）年度										
			6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
0．定例会議（市＋NS＋各事業者）			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
1．四日市SRC推進協議会													
幹事会					第1回幹事会 8/7				第2回幹事会		第3回幹事会		
データプラットフォームWG				● 第1回 7/31				● 第2回(予定)			● 第3回(予定)		
モビリティWG				● 第1回 7/29				● 第2回(予定)			● 第3回(予定)		
2．SC実装化支援事業に係る報告（国交省）			実験計画書提出 （6月末）	（適宜実施）					中間報告 （1月末予定）	最終報告 （3月半ば予定）			
3．SC実装化支援事業													
①利活用空間活性化ツールの構築	R7	データ可視化サービスの効果検証	サウンディング実施、ヒアリング内容精査		ヒアリング		サービス内容とりまとめ		報告書作成				
			自動連係開発・コンテンツ制作とヒアリング先の決定と依頼						防災訓練と連動した周知・ヒアリング等				
②四日市版MaaSの構築	R7	四日市版MaaS上でのまち歩き促進サービスの効果検証	四日市版MaaSの情報拡大構築						報告書作成				
			四日市版MaaSデータダッシュボードの構築作業		事前検証		効果検証のためのワークショップ実施						
③バーチャル空間におけるコミュニケーション・ツールの構築	R6補正	沿道空間利用マネジメントシステムの実装化に向けた課題の明確化	社会実験（1回目）	正式版システム（ドラフト）構築				調査項目検討	社会実験（2回目）	正式版システムの構築			
											報告書作成		
④3D都市モデルを活用したプランニング／マネジメント・ツールの構築	R7	デジタルインフラ台帳の仕様および実装メリットの明確化	デジタルインフラ台帳データの構築						実証実験、アンケート実施				
			マニュアル、ガイドラインの作成								報告書作成		

様式(イ)－3

国 都 総 第 3772 号
令 和 7 年 3 月 11 日四日市スマートリージョン・コア推進協議会
代表者 四日市市副市長 舘英次 殿国 土 交 通 大 臣
(公 印 省 略)

令和6年度 技術研究開発費補助金(スマートシティ実装化支援事業)

交付決定通知書

令和7年2月25日付けで交付申請のあった令和6年度技術研究開発費補助金(スマートシティ実装化支援事業)については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)第6条第1項の規定により、下記のとおり交付することに決定しましたので、同法第8条の規定により通知します。

記

1. 補助金の交付の対象となる事業及びその内容は、交付申請書(以下「申請書」という。)により申請のあったとおりとする。
2. 補助対象経費及び補助金の額は、次のとおりとする。

補助対象経費	金19,000,000円
補助金の額	金10,000,000円

3. 補助事業に要する経費の配分は、申請書の負担区分欄に記載のとおりとする。
4. 補助金は概算を以て支払をしなければ事務に支障を及ぼすような場合には、国土交通大臣が財務大臣に協議をした上で概算払をすることができる。
5. 補助金の交付条件は次のとおりとする。
 - 1) 補助事業の実施について、次の各号のいずれかに該当する場合は、あらかじめ国土交通大臣の承認又は指示を受けなければならない。
 - イ 補助事業に要する経費の配分の変更(軽微な変更を除く。)をするとき
 - ロ 補助事業の内容の変更(軽微な変更を除く。)をするとき
 - ハ 補助事業を中止し、又は廃止するとき
 - ニ 補助事業が予定の期間内に完了しないとき、又は事業の遂行が困難となったとき
 - 2) 補助事業を行う者は、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令(昭和30年政令第255号)及び技術研究開発費(スマートシティ実装化支援事業)制度要綱(令和3年12月20日国都市第86号)並びに技術研究開発費補助金(スマートシティ実装化支援事業)交付要綱(令和3年12月20日国都市第87号)に従わなければならない。

四日市スマートリージョン・コア推進協議会
代表者 四日市市副市長 荒木 秀訓 殿

国 土 交 通 大 臣
(公 印 省 略)

令和7年度 技術研究開発費補助金(スマートシティ実装化支援事業)
交付決定通知書

令和7年4月18日付けで交付申請のあった令和7年度技術研究開発費補助金(スマートシティ実装化支援事業)については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)第6条第1項の規定により、下記のとおり交付することに決定しましたので、同法第8条の規定により通知します。

記

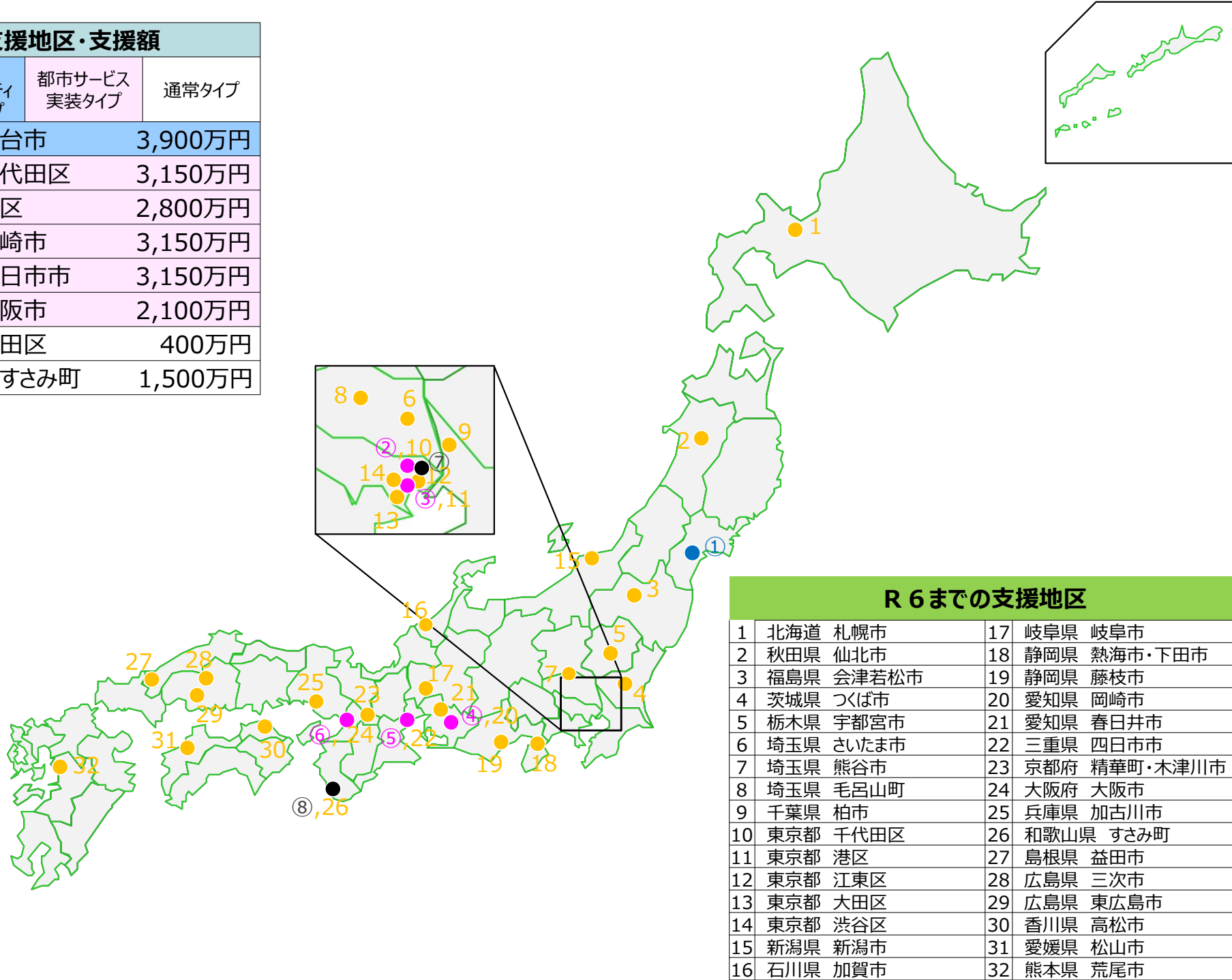
- 1. 補助金の交付の対象となる事業及びその内容は、交付申請書(以下「申請書」という。)により申請のあったとおりとする。
- 2. 補助対象経費及び補助金の額は、次のとおりとする。

補 助 対 象 経 費	金54,902,000円
補 助 金 の 額	金31,500,000円

- 3. 補助事業に要する経費の配分は、申請書の負担区分欄に記載のとおりとする。
- 4. 補助金は概算を以て支払をしなければ事務に支障を及ぼすような場合には、国土交通大臣が財務大臣に協議をした上で概算払をすることができる。
- 5. 補助金の交付条件は次のとおりとする。
 - 1) 補助事業の実施について、次の各号のいずれかに該当する場合は、あらかじめ国土交通大臣の承認又は指示を受けなければならない。
 - イ 補助事業に要する経費の配分の変更(軽微な変更を除く。)をするとき
 - ロ 補助事業の内容の変更(軽微な変更を除く。)をするとき
 - ハ 補助事業を中止し、又は廃止するとき
 - ニ 補助事業が予定の期間内に完了しないとき、又は事業の遂行が困難となったとき
 - 2) 補助事業を行う者は、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第 179 号)、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令(昭和 30 年政令第 255 号)及び技術研究開発費(スマートシティ実装化支援事業)制度要綱(令和3年 12 月 20 日国都市第 86 号)並びに技術研究開発費補助金(スマートシティ実装化支援事業)交付要綱(令和3年12月20 日国都市第87号)に従わなければならない。

令和7年度 スマートシティ実装化支援事業 支援地区

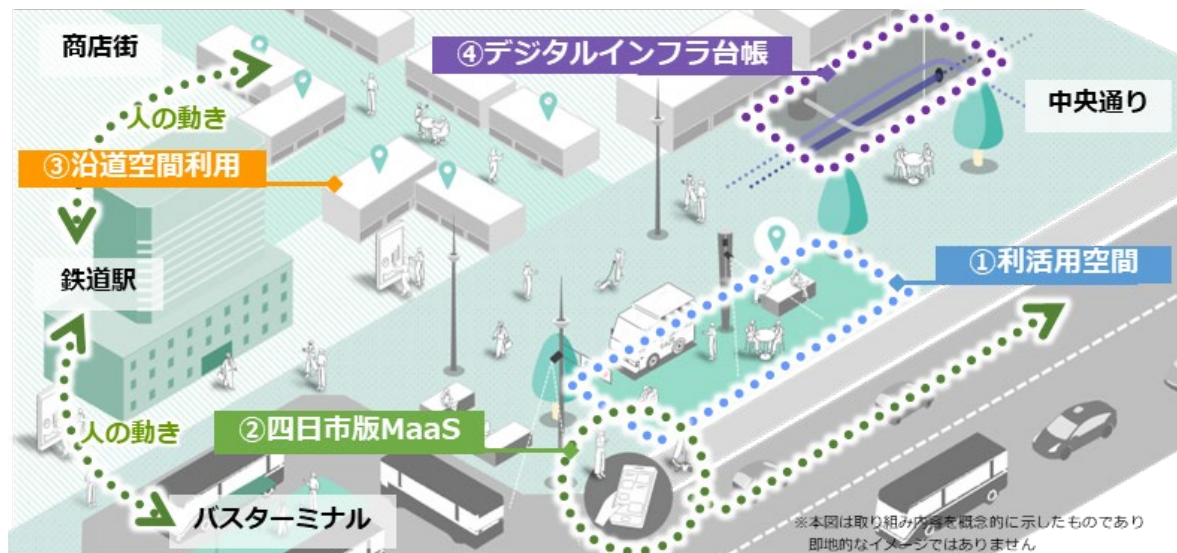
R 7 支援地区・支援額			
【凡例】	戦略的 スマートシティ 実装タイプ	都市サービス 実装タイプ	通常タイプ
①	宮城県 仙台市		3,900万円
②	東京都 千代田区		3,150万円
③	東京都 港区		2,800万円
④	愛知県 岡崎市		3,150万円
⑤	三重県 四日市市		3,150万円
⑥	大阪府 大阪市		2,100万円
⑦	東京都 墨田区		400万円
⑧	和歌山県 すさみ町		1,500万円



令和7年度
スマートシティ実装化支援事業の進捗について

令和7年8月
四日市スマートリージョン・コア推進協議会

スマートシティ実装化支援事業 取組概要



スマートシティポータルサイトをオープンし、デジタルマップ上でスマートインフラ等にて取得した各種データを可視化



←近鉄四日市駅西側先行整備区間においては、既にAIカメラ等を含むスマートインフラ及び利活用空間が整備済み

中央通り沿いの混雑状況や環境データを可視化するダッシュボード→



中央通り再編事業の波及効果を促進し、持続的・自律的なまちづくりを推進するスマートシティサービスの実装

四日市市では、中央通り再編事業等により中心市街地の活性化を進めている。その波及効果を促進しつつ、持続的・自律的なまちづくりを推進するスマートシティサービスの実装を目指し下記①～④の取り組みを進めている。

今年度は3か年の実証の最終年度にあたる。

①利活用空間活性化ツールの構築

中央通り（人通り・気候・道路の情報等）の状況がリアルタイムで分かり、イベントの促進に寄与する必要なデータが得られるサービスを構築

②四日市版MaaSの構築

徒歩と公共交通機関での移動に付加価値を付け、まちなかの回遊性を促すサービスの構築

③沿道空間利用マネジメントシステムの構築

誰もがチャレンジできる場を提供するため、気軽に利用できる広場や歩道、空き店舗を可視化し、貸し借りができるサービスを構築

④デジタルインフラ台帳の構築

沿道の土地利用を促進するため、開発にかかる関係者間の調整を支援するサービスを構築

スマートシティ実装化支援事業 各取組の概要

①

利活用空間活性化ツールの構築 (R7年度)

＜ロードマップ達成に向けた課題＞

- ・デジタルサイネージの視認性向上、コンテンツの充実、運用体制の構築
- ・適切な災害情報伝達方法の検討
- ・持続的な運営のためのマネタイズ方策等に係る検討

＜今年度の実証実験における主な取組内容＞

持続的な運営のためのデータ提供方法について実証

データ収益化を見据え、下図に記載している有料サービスの実証を行う。有料サービスとしての付加価値として、AIを用いた過去のデータ分析ツールを導入し、ユーザーのニーズに応えたデータを提供する。

データ可視化サービスに災害時情報伝達機能を追加し、災害時情報のオープン化および適切な災害情報伝達方法を実証

公式災害情報等とのデータ連携を行い、データプラットフォームを介してデータをオープン化し、民間所有のデジタルサイネージでの災害情報発信を実証する。

■ロードマップ

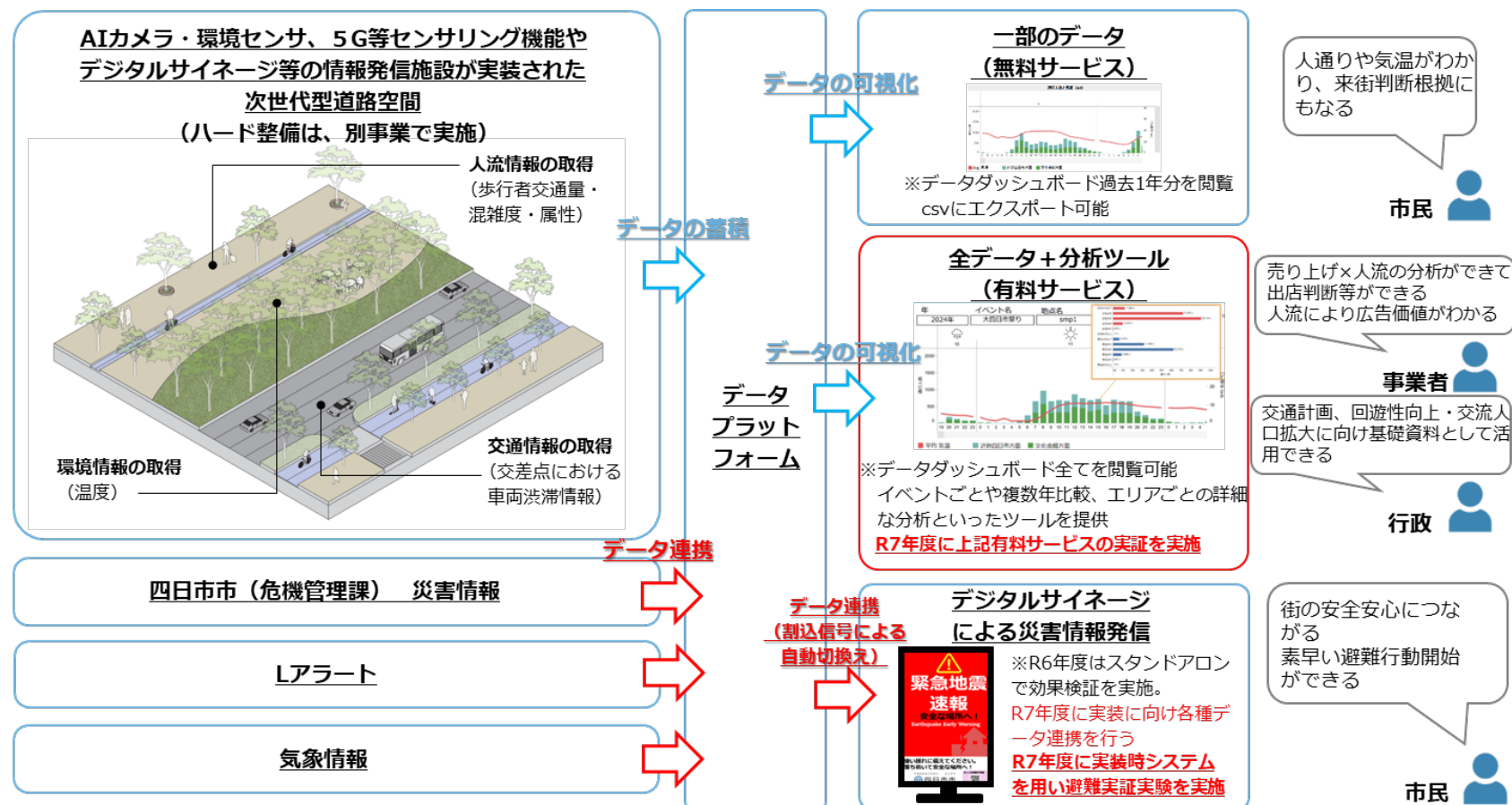
	R4(2022)年度	R5 (2023)年度	R6 (2024)年度	R7 (2025)年度	R8 (2026)年度	R9 (2027)年度
ロードマップ		スマートインフラの導入				
		AIカメラ設置	デジタルサイネージ設置	順次	AIカメラ等設置拡大	
		ポータルサイトの構築			データ可視化サービスの実装	
実施内容／予定	・スマートポールの配置・デザイン等を検討 ・中央通りのローカル5G導入	・先行整備区間にスマートポールを設置 ・ポール及び照明柱等にAIカメラ、環境センサーを設置(人流、自動車交通量、気温等) ・四日市DPFとのデータ連携、ポータルサイトを通じた情報発信を開始	・市民公園にデジタルサイネージを設置 ・情報発信拠点としての有用性を検証 ・ポータルサイトのコンテンツ見直し ・運用体制の検討	(予定) ・持続的な運営のためのデータ提供方法について実証 ・災害時情報のオープン化および適切な災害情報伝達方法を実証 ・データ可視化サービスの実装		

■実験で検証したい仮説及び実証実験内容と実証方法

	データ可視化サービスの効果検証(R7年度)
仮説	・運用体制を明確化し、データ販売を見据えたデータ提供についてのサービスのマネタイズにより、持続的な運営に繋がる。 ・災害時情報伝達機能の充実により、防災力向上に加え、サービスの認知度向上につながる。
実証の概要	持続的な運営のためのデータ提供方法について実証 データ収益化を見据え、下図に記載している有料サービスの実証を行う。有料サービスとしての付加価値として、AIを用いた過去のデータ分析ツールを導入し、ユーザーのニーズに応えたデータを提供する。 データ可視化サービスに災害時情報伝達機能を追加し、災害時情報のオープン化および適切な災害情報伝達方法を実証 公式災害情報等とのデータ連携を行い、データプラットフォームを介してデータをオープン化し、民間所有のデジタルサイネージでの災害情報発信を実証する。 <pre> graph LR A[道路空間でのセンシングにより取得したデータ (人流・交通・環境情報)] -- "データ蓄積" --> B[データプラットフォーム] C[四日市市災害情報] -- "データ連携" --> B D[Lアラート] -- "データ連携" --> B E[気象情報] -- "データ連携" --> B B -- "データ可視化" --> F[一部のデータ (無料サービス)] B -- "データ可視化" --> G[全データ+分析ツール (有料サービス)] B -- "データ連携" --> H[デジタルサイネージによる 災害情報発信 (市整備+民間所有)] I[オープンデータ化] </pre>
実証方法	1)利活用空間利用者等に対するデータ提供実証実験を実施 蓄積された人流および混雑度のデータをパッケージとしてどのように提供するかを検討した上で、出店事業者等へデータ提供を行い、有用性やデータ可視化サービスの価格設定についてアンケートを実施する。 2)災害情報コンテンツ効果検証を実施 イベント等において、発災直後の災害情報コンテンツを自動で提供し、市民や事業者へオープンデータ化された災害情報の優位性を周知する。また、事業者においては、事業者保有のサイネージとの連携方法についてAPIなどの案内を行い、事業者保有サイネージとの親和性や連携手順についての課題をアンケートを実施し抽出する。

■実装時に目指すサービスのイメージ

AIカメラや環境センサ※により、利活用空間の人流・密度・属性・環境情報や交差点における車両の渋滞情報などをデータ取得し、ローカル5G※やデータプラットフォームを活用して、データ蓄積や可視化を行い、即時的な防災・交通情報等の緊急情報を発信するとともに、ポータルサイトとタッチパネル型デジタルサイネージを通じて、情報発信を行うサービスを展開（※別事業で整備）



スマートシティ実装化支援事業 各取組の概要

②

四日市版MaaSの検討 (R7年度)

＜ロードマップ達成に向けた課題＞

- ・MaaS利用者数の増加方策の検討
- ・MaaSの持続性の検討
- ・MaaSのデータを利活用するためのシステムの構築



＜今年度の実証実験における主な取組内容＞

MaaSデータダッシュボードの有用性に関する実証

四日市データプラットフォームと連携したMaaSに関するデータを、分析・可視化するダッシュボードを構築した上で、想定ユーザーに試行してもらい利用者調査を行う。試行後、ユーザーインターフェースや継続利用性についてのアンケートを行い、その有用性を検証する。

既存情報(駐車場)の拡充と新規情報(駐輪場・店舗・公共施設情報)の追加による四日市スマートシティポータルサイトへのアクセス数増加を検証

駐車場満空情報を提供する駐車場数の追加を行うとともに、駐輪場、地域の店舗、公共施設(ベンチ・バリアフリー施設等)の新規情報を追加し、四日市スマートシティポータルサイト内に構築した四日市デジタルマップへのアクセス数の増加傾向を検証する。

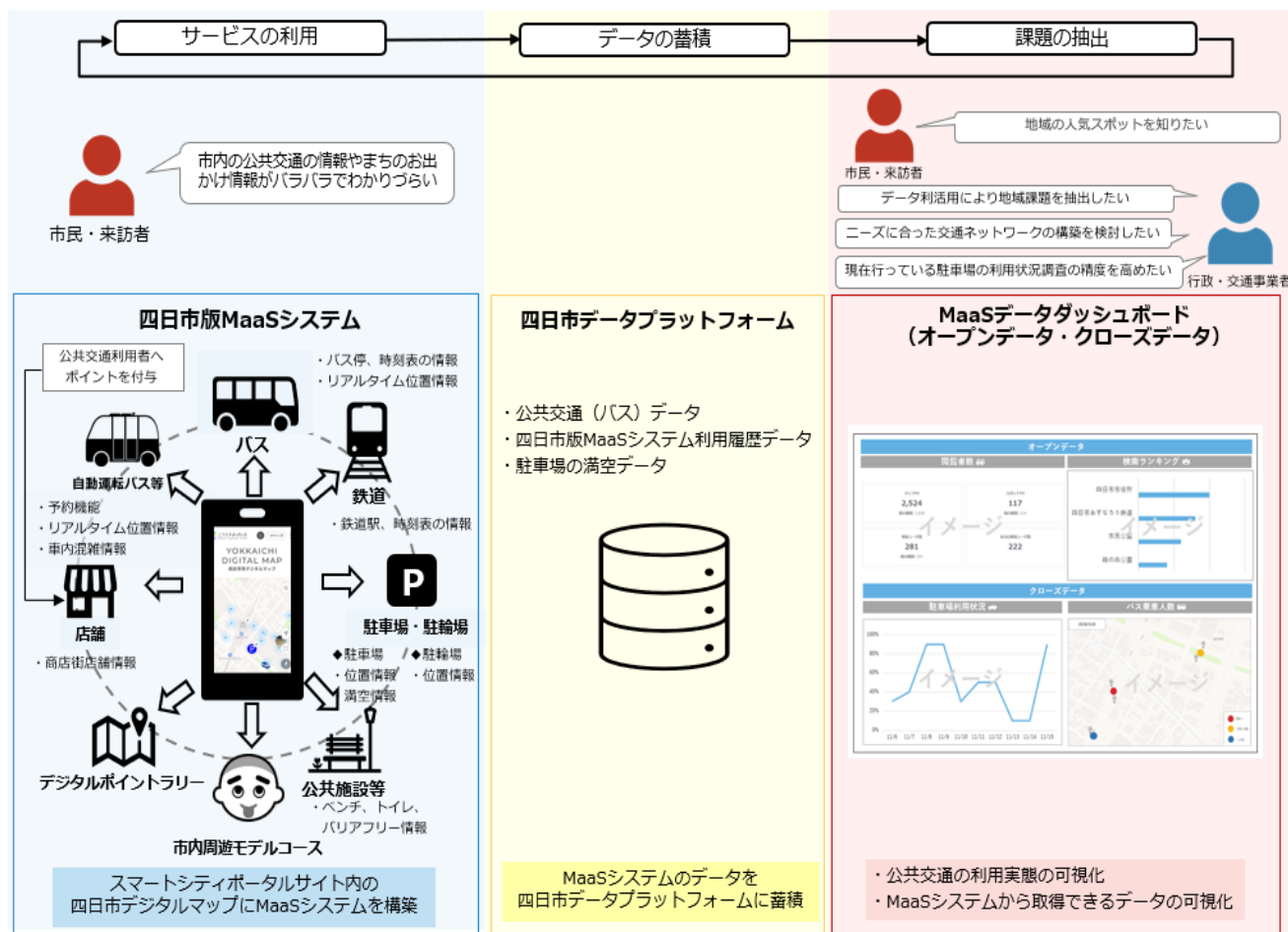
■ロードマップ

	R4(2022)年度	R5 (2023)年度	R6 (2024)年度	R7 (2025)年度	R8 (2026)年度	R9 (2027)年度
ロードマップ	自動運転バス等実証実験の実施					
			連携			
実施内容／予定	四日市版MaaS検討					
		社会実験	社会実験	社会実験	四日市版MaaS実装	
	- 自動運転バス等実証実験の実施 - モビリティWG及び分科会実施(MaaS分科会、次世代モビリティ分科会)	- 自動運転バス等実証実験の実施 - モビリティWG実施 - 四日市版MaaS実証(デジタルスタンプラリーを用いたまち歩きイベント等)	- 自動運転バス等実証実験 - モビリティWG実施 - 四日市版MaaS実証(まち歩き促進サービス、運用体制の検討等)	(予定) - 自動運転バス等の実証実験 - モビリティWG実施 - MaaSデータダッシュボード構築 - MaaSの機能拡充 - サービスの実装		

四日市版MaaSにおける実装内容の最終検証(R7年度)	
仮説	・四日市データプラットフォームと連携しMaaSデータを可視化するMaaSデータダッシュボードを構築することにより、潜在的なニーズや地域課題をデータから発見でき、PDCAを円滑に回すことが可能となり、今後のサービス改善に繋がる。 ・ユーザーの目的地となるような提供情報を拡大することにより、サービスの利便性が向上し、システム利用者数と施設利用者数の増加につながる。
実証の概要	1) MaaSデータダッシュボードの有用性に関する実証 四日市データプラットフォームと連携したMaaSに関するデータを、分析・可視化するダッシュボードを構築した上で、想定ユーザーに試行してもらう利用者調査を行う。試行後、ユーザーインターフェースや継続利用性についてのアンケートを行い、その有用性を検証する。 2) 既存情報(駐車場)の拡充と新規情報(駐輪場・店舗・公共施設情報)の追加による四日市スマートシティポータルサイトへのアクセス数増加を検証 駐車場満空情報を提供する駐車場数の追加を行うとともに、駐輪場、地域の店舗、公共施設(ベンチ・バリアフリー施設等)の新規情報を追加し、四日市スマートシティポータルサイト内に構築した四日市デジタルマップへのアクセス数の増加傾向を検証する。 3) 四日市版MaaSを通じた「こにゅうどうレンタサイクル」サービスの提供によるレンタサイクル利用者数の増加を検証 四日市デジタルマップ上に、こにゅうどうレンタサイクルのスポット追加を行うとともに、案①周辺施設と連携やアンケート協力者に対してのクーポンの発行、案②四日市版MaaS上での利用登録の提供を行い、こにゅうどうレンタサイクルの施設利用者数の増加を検証する。
実証方法	1) MaaSデータダッシュボードに関するアンケートを実施 想定されるユーザー(市役所関係部署、交通事業者、商工会議所等)にプロトタイプのダッシュボードを試行してもらい、そのユーザーインターフェースや継続利用性等の有用性についてアンケートを実施する。 2) 四日市デジタルマップへのアクセス数を計測 既存情報の拡充と新規情報の構築による影響を把握するため、取組実施前後における四日市デジタルマップへのアクセス数の推移を計測する。 3) 四日市版MaaSからこにゅうどうレンタサイクルの案①クーポン/案②利用登録を行った人数を計測 四日市版MaaSを経由してこにゅうどうレンタサイクルを利用した人を把握するため、四日市デジタルマップから提供されるサービスを利用した人数を計測する。

■実装時に目指すサービスのイメージ

市民や来訪者向けに四日市市デジタルマップにMaaSシステムを構築することによって、中心市街地の回遊性や消費行動を促進させ、賑わいの創出に寄与する。加えて蓄積されたMaaSデータを利活用できるダッシュボード構築により、PDCAサイクルを早く回せる仕組みを構築



スマートシティ実装化支援事業 各取組の概要

③

バーチャル空間におけるコミュニケーション・ツールの構築
沿道空間活用マネジメントシステムの構築
(R6年度補正)

＜ロードマップ達成に向けた課題＞

- ・正式版システムの構築に向けた与件整理、改修箇所の決定
- ・対象エリアの拡大
- ・システムの運用体制及びルール of 精査



＜今年度の実証実験における主な取組内容＞

正式版システムの構築

まず、R6年度の実証結果を踏まえた与件整理、システム改修案の作成を通して正式版システム(ドラフト)を構築・実装する。さらに、正式版システム(ドラフト)を用いた実証実験を実施し、その結果を踏まえて正式版システムを構築する。

新たな利活用スペースの発掘と空間情報の調査・整理

対象エリアの拡大に向け、新たな利活用スペースを発掘するとともに、システムに重畳する空間情報を調査、整理する。

システムの実証・運用体制の検討

社会実験出展者にシステムを利用してもらうことで、利用者目線でシステムを評価するとともに、システム利用を通じた商店街活性化への意欲向上等の効果について検証する。また、社会実験でのシステム実装を通して運用体制やルールの検討を行う。

■ロードマップ

	R4(2022)年度	R5 (2023)年度	R6 (2024)年度	R7 (2025)年度	R8 (2026)年度	R9 (2027)年度
ロードマップ		沿道空間利用マネジメントシステムの構築		実装		
		沿道空間基礎調査等	システム構築(β版)	システム構築(正式版)		
実施内容／予定		・沿道空間の基礎調査実施(商店街空き店舗等) ・商店会とのワークショップ実施 等	・沿道空間利用マネジメントシステムβ版の作成	(予定) ・沿道空間利用マネジメントシステム正式版の作成 ・サービスの実装		

	沿道空間利用マネジメントシステムの実装化に向けた課題の明確化(R6年度補正)
仮説	・人流データ取得ポイント・ロコミ投稿機能・3D都市モデル情報反映など、様々なサービス内容の拡張が、利活用空間ウェブサイトにおけるマッチング促進、商店街の活性化につながる。
実証の概要	2D地図への3D都市モデルの情報反映、エリアの拡大、システムのオープン化による効果検証 ・R6年度の成果を踏まえ、年度の前半を目途に、正式版(ドラフト)を構築。正式版(ドラフト)においては、さらなる利活用を促すために対象場所の空間情報に加え、周辺の環境情報を把握するために、3D都市モデルの画面を閲覧できるようにする。更に、サービス対象のオープン化、対象エリアを拡大、人流データ取得ポイント・予約状況・活用実績の追加などサービス内容の拡張を行う。 ・正式版(ドラフト)に対して、利用者へのヒアリング・アンケートを行い、マッチングを促進するための人流データの有用性、利用者評価情報の有用性の実証を行い、実証結果を踏まえ適宜システム更新を行った上で、正式版としてR7年度中にリリースする。
実証方法	効果的な情報表示方法・使い勝手・商店街活性化への寄与についてのアンケートの実施 3D都市モデルの情報を2D地図へ反映し、対象エリアについてサービス内容を正式版として構築した上で、実装後も中心的なシステム利用者の一部として想定される賑わい創出社会実験協力者および商店街関係者に対して、システムを試行してもらい、そのうえでアンケート調査およびヒアリングにより、効果的な表示方法、使い勝手、商店街の活性化への寄与について実証を行う。

■ KPI

検証項目	検証方法	目標	概要
システム環境とユーザビリティの適正性の検証	商店街関係者および社会実験協力者へのアンケート・ヒアリング調査	5段階評価で7割以上の事業者がポジティブな評価	アンケート・ヒアリング調査により、利用者ニーズの反映、2D地図をもとにした3D都市モデルの一部利用、エリアの拡大、オープン化によるシステムの使い勝手の向上などの効果を検証する
システムによる商店街活性化の効果検証	商店街関係者および社会実験協力者へのアンケート・ヒアリング調査	システムを利用することによる商店街活性化への期待する回答が7割以上等	アンケート・ヒアリング調査により、システムの利用を通じた新たなビジネス・民間投資への意欲や、オープンスペース及び沿道の未利用の土地・建物への興味、商店街活性化への意欲や期待値の向上などの効果を検証する

■スケジュール

項 目				令和7（2025）年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
				月				4月				5月				6月				7月					8月				9月				10月					11月				12月				1月					2月				3月																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
				週				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1

■社会実験1回目(ニワミチJOYntParkDays)について

四日市市では、居心地が良く歩きたくなる魅力的なまちなかの実現を目指し、中央通りの再編に取り組んでいる。再編により新しくなった空間では、市民の皆さんの「使いたい」や「やってみたい」を実現し活気のある空間になることを目指している。

今回の社会実験では、中央通り再編により生まれる公共空間(幅員の広い歩道部、バスタ内東海道広場、中央通り公園)を想定し、市民等の参加による様々な活動でまちの賑わいを生み出していくための調査を行った。

ニワミチ
**JOYnt
Park Days**

ニワミチ ジョイントパークデイズ

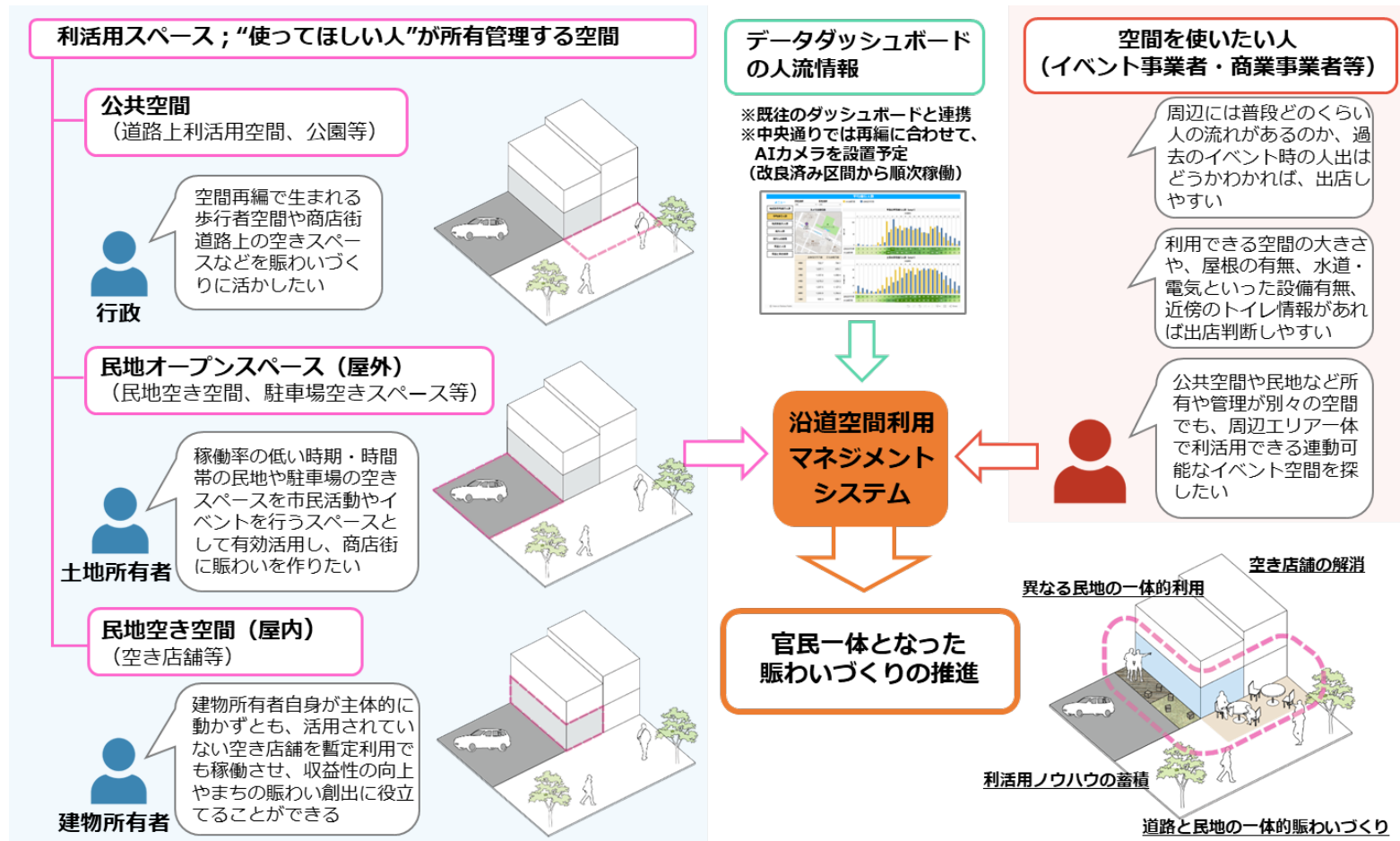
2025. **5.31 SAT** ・ **6.1 SUN** 2日間
開催

10:00~18:00 ※雨天決行



■実装時に目指すサービスのイメージ

街路空間の再編で生まれる歩行者空間や低未利用地・空き店舗（民有地）など利活用可能なスペースを官民連携で一体的に取り扱うことで、“使いたい人”と“使ってほしい人”をつなげ、“より使われる空間”へ転換し、中心市街地の賑わいづくりを目指すサービスを展開



スマートシティ実装化支援事業 各取組の概要

④

中央通りにおける3D都市モデルを活用した
プランニング／マネジメント・ツールの構築
デジタルインフラ台帳の構築
(R7年度)

＜ロードマップ達成に向けた課題＞

- ・ユースケース展開による利用促進
- ・管理運用体制の検討、マニュアル・ガイドラインの必要性



＜今年度の実証実験における主な取組内容＞

持続可能なデジタルインフラ台帳の運用に必要な体制・ルールの実証

R6年度検討した運用体制の課題整理を踏まえて、日常的なデータ管理および更新の体制、ルールについて仮設定を行い、中央通りの大部分を対象としてモデルを構築した上で、実際に試行することで体制・ルールの検証を行う。モデルにおいては、試掘等の結果を反映し精度を向上していく運用を想定しているが、一度作成した地下埋設物モデルに対して改変を加える場合、これらの変更方法・表記方法・分類方法等のルールについても検討し、実証を行う。

※現時点で試掘結果によるものと台帳ベースによるものといった精度の違いによる変更・表記ルールがPLATEAUに存在しないため、表記方法のルール設定を行う必要がある。

ARソフトを活用したデジタルインフラ台帳ユースケースの有用性の検証、災害発生時の有用性の検証

R6年度検討の中で、地下埋設事業者等から地下埋設物3DモデルをARソフトを用いて現場確認を行うことが、施工の手戻りリスクの低減につながるのではとの意見があった。今年度は、ARソフトを用いた現場確認のユースケースを実証することにより、デジタルインフラ台帳の有用性の検証を行う。また、災害発生時に地下埋設物の状況が迅速に把握できることによる有用性を検証する。

■ロードマップ

	R4(2022)年度	R5 (2023)年度	R6 (2024)年度	R7 (2025)年度	R8 (2026)年度	R9 (2027)年度
ロードマップ	仕様検討等	中央通りにおける構築 デジタルインフラ台帳の構築・更新		最終仕様調整・実装開始	実装 継続利用	
					必要に応じて機能の見直し等	
実施内容／予定	・ 3D都市モデル構築	・ 先行整備区間の一部におけるサンプルデータを作成	・ 地下埋設物3次元モデルデータ作成及びデータ更新の試行を通して、デジタルインフラ台帳の有用性およびアクセス環境（セキュリティ面）を実証	(予定) ・ デジタルインフラ台帳のユースケースの有用性の検証 ・ データ構築範囲の拡大 ・ デジタルインフラ台帳の運用体制・ルールを決定		

デジタルインフラ台帳サービスについて運用体制の決定（R7年度）

仮説

- ・R6年度に決定したシステム主要要件（使用ソフト等）、運用体制の課題整理を踏まえて、中央通りの大部分を対象としてモデルの構築を行った上で、運用体制・ルールを構築することにより、持続可能な運営につながる。
- ・ARソフトの活用により、災害復旧時の有用性などを含め、デジタルインフラ台帳の更なる活用につながる。

持続可能なデジタルインフラ台帳の運用に必要な体制・ルールの実証

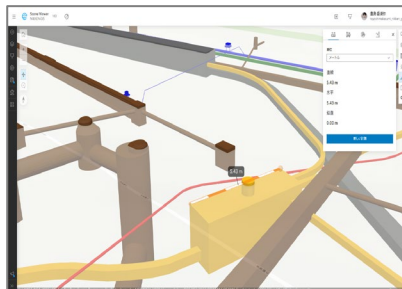
R6年度検討した運用体制の課題整理を踏まえて、日常的なデータ管理および更新の体制、ルールについて仮設定を行い、中央通りの大部分を対象としてモデルを構築した上で、実際に試行することで体制・ルールの検証を行う。モデルにおいては、試掘等の結果を反映し精度を向上していく運用を想定しているが、一度作成した地下埋設物モデルに対して改変を加える場合、これらの変更方法・表記方法・分類方法等のルールについても検討し、実証を行う。

※現時点で試掘結果によるものと台帳ベースによるものといった精度の違いによる変更・表記ルールがPLATEAUに存在しないため、表記方法のルール設定を行う必要がある。

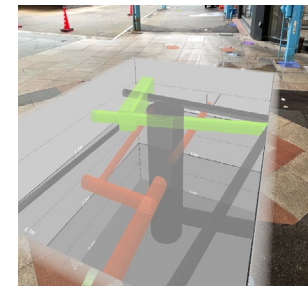
ARソフトを活用したデジタルインフラ台帳ユースケースの有用性の検証、災害発生時の有用性の検証

R6年度検討の中で、地下埋設事業者等から地下埋設物3DモデルをARソフトを用いて現場確認を行うことが、施工の手戻りリスクの低減につながるのではとの意見があった。今年度は、ARソフトを用いた現場確認のユースケースを実証することにより、デジタルインフラ台帳の有用性の検証を行う。また、災害発生時に地下埋設物の状況が迅速に把握できることによる有用性を検証する。

実証の概要



【機能】
 ・各種デバイスでの情報確認
 ・距離計測
 ・高さ計測
 ・断面表示
 【対象】一部区間(200m程度)



【R7追加機能】
 ARを用いた現場での確認・高さ計測
 【R7対象】
 中央通りの大部分

実証方法

1)整備済みモデルを用いたモデル変更に関する運用体制・ルールの試行、アンケートを実施

作成したモデルを用いて、モデル変更・更新作業について運用体制・ルールの試行を行う。（更新作業を最低3回以上）その上で、各関係者の使い勝手（主にデータの管理・やり取りの使い勝手・運用の手間（コスト））についてアンケートを実施する。

2)ARソフトを活用した現場確認実験を実施

実際に進む工事の中で、発注者・設計者・施工者・地下埋設事業者を対象にARソフトを活用した現場確認実験を実施し、各関係者にアンケートを実施し、メリット・デメリットを整理する。併せて、埋設物破損事故防止効果・災害復旧時の機能回復の迅速化等についてのアンケートを行う。

事業④ デジタルインフラ台帳の構築

KPI、スケジュール

KPI

検証項目	検証方法	目標	概要
デジタルインフラ台帳の運用に必要な体制・ルール	デジタルインフラ台帳の運用に携わる市及び埋設物事業者等へのアンケート	運用に関する体制・ルールについて「今回の体制・ルールであれば導入可能」という回答が9割以上「R7時点で実装可能」という回答が2社以上	実際の埋設物工事竣工図・試掘結果に基づいて複数のケースでデータの更新を行い、最適な運用の体制・ルール等を設定する。その内容について関係者に説明し、「問題はない」という回答の割合を調べる。
デジタルインフラ台帳の利用を促進するためのユースケースの有効性	①ARソフトを活用した現場確認実験 ②埋設物破損事故防止効果、災害復旧時の状況確認・機能回復の迅速化等についてのアンケート ③災害復旧時に台帳を活用した場合の工数シミュレーション	①ユースケースの有効性を認める回答が過半数を占める ②破損事故防止、災害復旧に効果があるという回答が7割以上 ③災害復旧時の検討にデジタルインフラ台帳を活用した場合の工数について2割以上の削減効果	アンケート時に自由記述欄を作成し、更なるユースケースのアイデアについて収集を行う。アンケートの対象者は、道路管理者、埋設物事業者、設計者、施工者、不動産事業者という多様な立場の関係者を設定し、意見の偏りが生じないように配慮する

スケジュール

		令和7（2025）年度																																																																												
項 目	月	4月				5月				6月				7月					8月				9月				10月					11月				12月				1月					2月				3月																													
	週	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4																														
1. デジタルインフラ台帳の構築			●	資料収集・整理											●	デジタルインフラ台帳データの構築											●	必要に応じて修正											●	実装準備											●	実装開始																										
2. 埋設物事業者との合意形成				●	情報公開に関する合意書等の準備											●	デジタルインフラ台帳・更新用データ・マニュアル等の内容のすり合わせ																																	情報公開に関する合意書締結											▶																	
3. マニュアル・ガイドラインの作成						●	骨子の作成											●	マニュアル・ガイドラインの作成											●	必要に応じて修正											▶																																				
4. 実証実験・アンケート																																																																														
5. 都市計画課様打合せ・報告書取りまとめ				●	打合せ																																																																									
																																				</																																										

■実装時に目指すサービスのイメージ

中央通りの地下埋設物のデジタルインフラ台帳を構築するとともに、現場で活用できるARソフトを開発し、民間事業者の埋設物照会作業・施工協議の負荷低減に加え、市側のインフラ維持管理業務の効率化に寄与するサービスを展開

初期画面



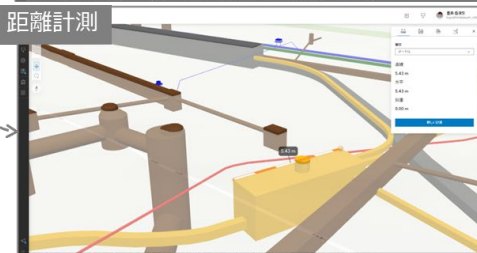
高さ計測



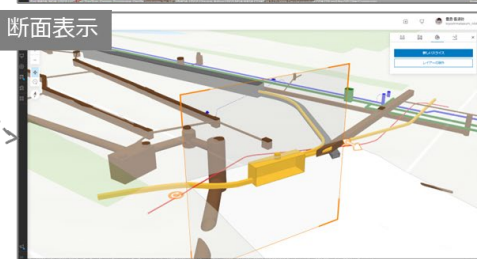
地下からの見上げ



距離計測



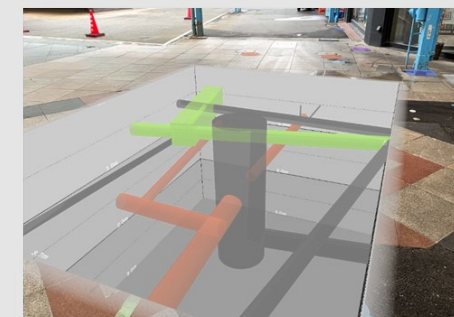
断面表示



【地下埋設物3DモデルのAR表示】



【仮想掘削穴による地下埋設物3DモデルのAR表示】

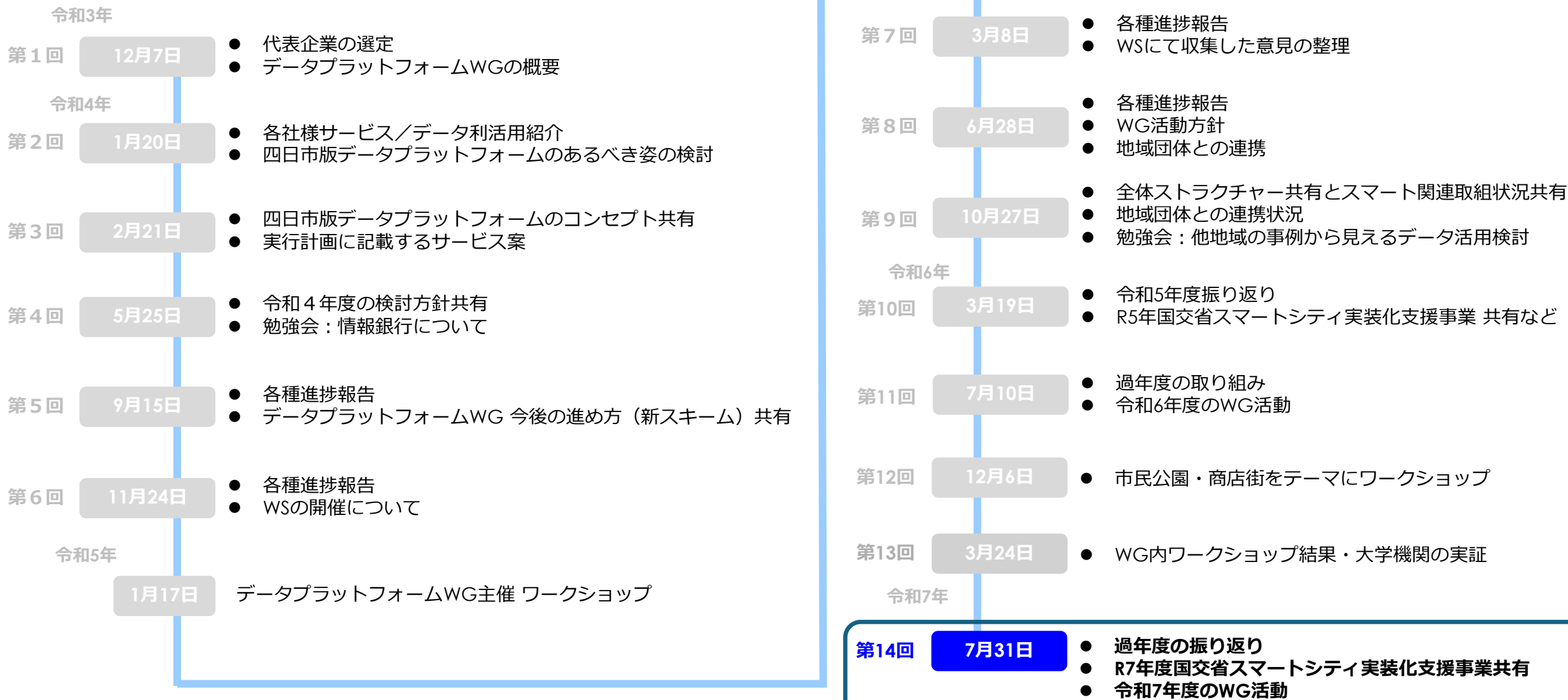


第14回 データプラットフォームWG (幹事会報告)

四日市スマートリージョン・コア推進協議会
データプラットフォームWG

2025年8月7日（木）

過年度の活動 振り返り



令和7年度
データプラットフォームWG
活動計画

新アドバイザー経歴紹介（^{むらた ひろし}村田 博司）

現在の所属：三重大学

大学院工学研究科 電気電子工学専攻／教授
高周波フォトニクス研究室

現在の研究課題

1. **5G無線**のためのフォトニックベースフロントホールの研究
2. **5G/IoT無線システム**のための無線・光融合デバイスの開発
3. マイクロ波フォトニクス技術を用いたインフラ非破壊計測・診断技術
4. 可視レーザーのディスプレイ・照明応用技術と**IoTシステム**の開発



新アドバイザー経歴紹介（^{なかむら たかお}中村 孝夫）

現在の所属：三重大学

研究・社会連携統括本部/教授 URA室長/産学連携部門 副部門長
工学研究科/半導体・デジタル未来創造センター/教授

三重大学では半導体研究以外に**外部資金獲得（学内、大学連携、産学連携）**を担当
産・学・官をすべて経験 ⇒ **協議会へ寄与**



産：住友電工における研究開発（1986-2017）

官：NEDOに在籍（2017-2020）

令和7年度 データプラットフォームWG活動

目的		中央通りでオープンデータを活用した全国初のサービスを推進
概要		中央通りで整備されている各種センサーデータ及び行政データを活用 ▶ 全国初のサービス企画及び実証実験、実装を推進する
活動テーマ		1 スマートシティ先進都市視察会の開催 ・ 他市町事例から四日市ならではのデータ活用、新サービスを検討する 2 課題抽出及び解決型ワークショップの開催 ・ これまでの課題やアイデアを整理し再開発が進行している今の新たな課題を抽出する
効果		1 2 新サービス創造のヒントやWGメンバーの議論を活性化する

令和7年度 データプラットフォームWG活動テーマ



活動テーマ

公園DXチャレンジ

- 令和7年1月より中央通り周辺地域内で新たな公園の誕生やリニューアルが多数行われるため、令和6年度実施したワークショップで出たアイデアや公園をテーマにした新たなスマートの取り組みの検討を行う

四日市市民公園

- 令和6年3月からリニューアル工事がはじまりました
- シンボルとなっている「七海のかけ橋」をコンセプトにした噴水は残し、伊勢湾を描いた舗装イメージを踏襲しながらも、イベントや緊急時の利用に配慮した公園に生まれ変わります
- 公園全体で利用できる Free Wi-Fiを整備する予定です



中央通り再編事業と関連した事業

- 鵜の森公園と諏訪公園においても、リニューアルに向けた事業が進行中です
- 鵜の森公園では、既存樹木を守りつつ、ゆったりとした芝生広場や遊び場を整備し、のびのびと過ごせる憩いの場に、諏訪公園では、大四日市まつりをはじめとしたイベント利用と日常利用の両立を一層重視した公園に、それぞれ生まれ変わります

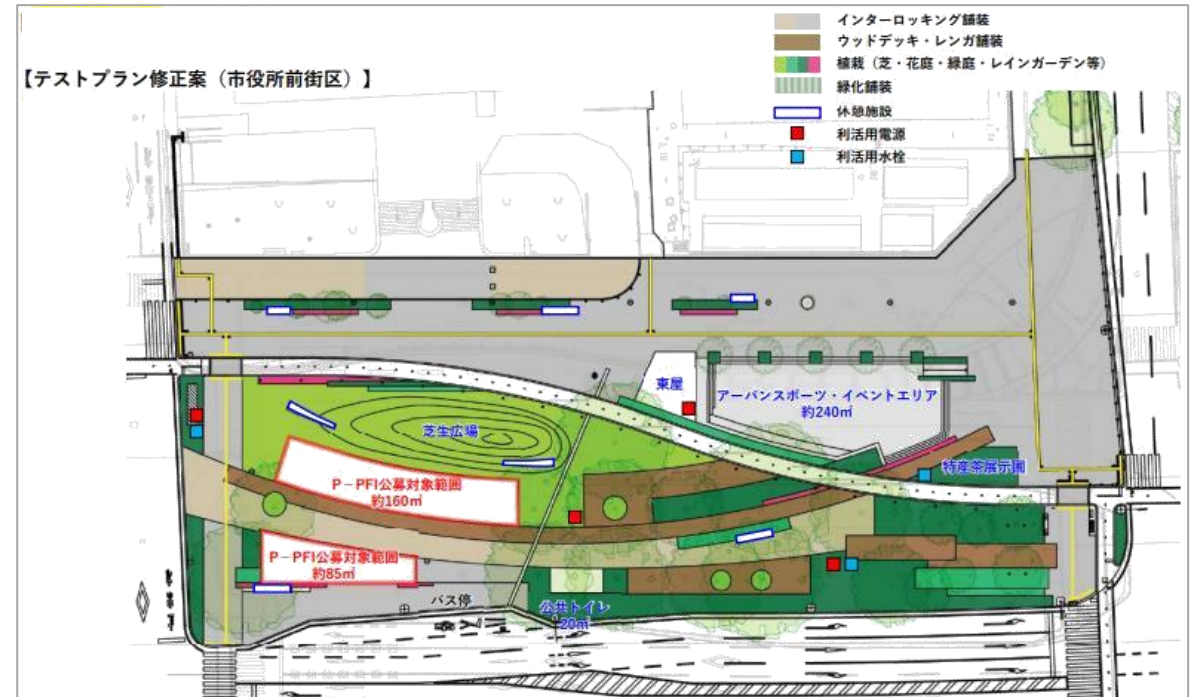


鵜の森公園



諏訪公園

中央通り公園のデザイン



スマートシティ先進都市視察会の開催

- ▶ スマートシティ先進都市視察会の開催 (例 平城宮跡歴史公園スマートチャレンジ)
※開催地については、現在調査中となります

自動運転車両を用いた
園内周遊サービス



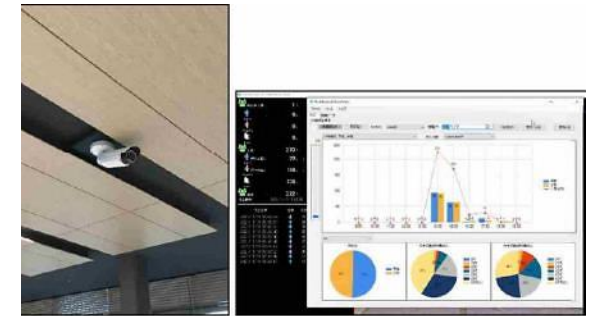
園内を周遊しながらの
VR歴史体験サービス



Wi-Fi通信環境を活用した人量解析
および園内外の回遊促進イベント



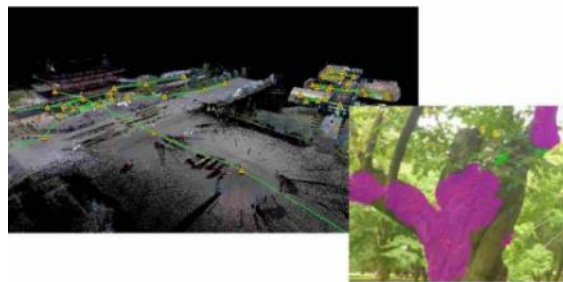
カメラを用いた人流解析



ドローンを活用した園内維持管理の効率化



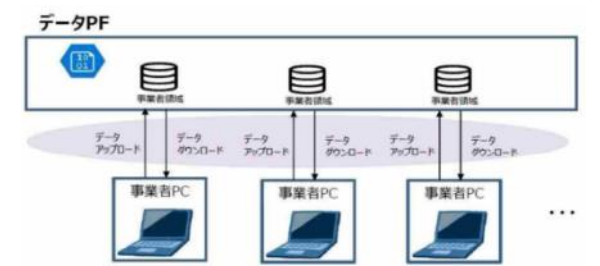
AI解析技術を活用した
園内維持管理の効率化



公園管理台帳システムの構築

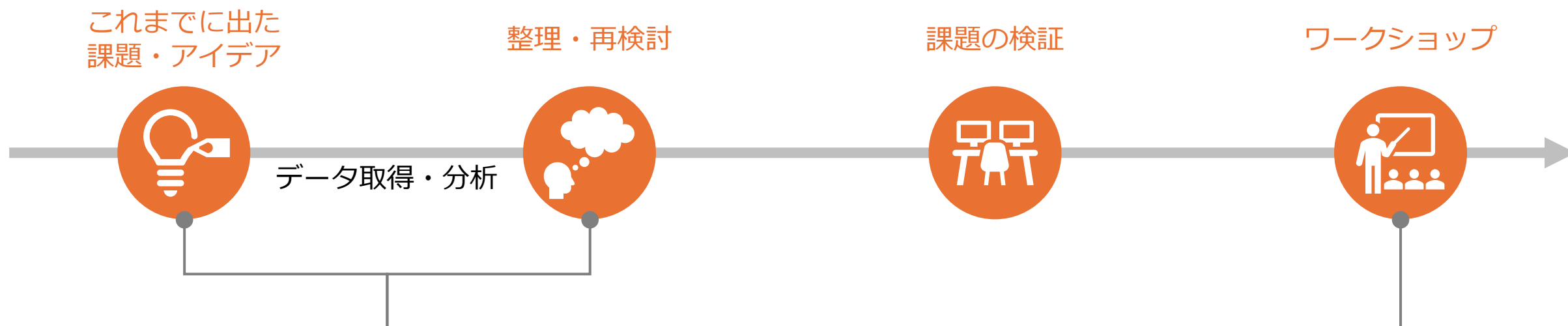


データプラットフォームの構築



課題抽出及び解決ワークショップ開催

▶ 課題抽出及び解決ワークショップ開催



これまでの課題やアイデアの整理

- ワークショップで抽出した中央通りの課題やニーズ、まちづくりアイデアソンで出された課題解決方法案、学生、事業者による課題抽出からサービス実証など振り返りこれまでの課題やアイデアの整理・抽出を行う



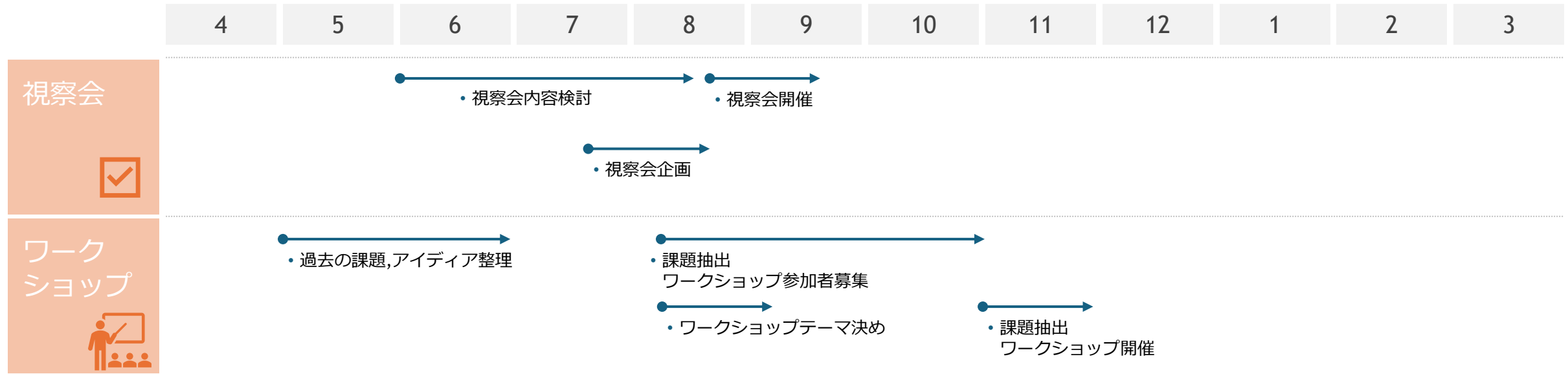
課題解決型ワークショップ

- 秋頃に開催
- R8年度を見据えたプレ実証準備

課題、アイデアが
正しかったか
ワークショップで整理する



令和7年度 データプラットフォームWG活動 スケジュール



令和7年度 国交省スマートシティ実装化支援事業概要 報告

国交省スマートシティ実装化支援事業とは

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令和5年6月30日

スマートシティプロジェクトチーム事務局

令和5年度 スマートシティ実装化支援事業 支援地区



R5支援地区（13地区）

先進的な事業の実証事業に対する支援。

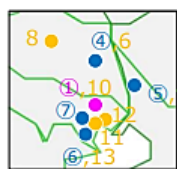
【凡例】 都市サービス実装タイプ 通常タイプ

①	東京都 千代田区
②	三重県 四日市市
③	福島県 会津若松市
④	埼玉県 さいたま市
⑤	千葉県 柏市
⑥	東京都 大田区
⑦	東京都 渋谷区
⑧	新潟県 新潟市
⑨	石川県 加賀市
⑩	愛知県 岡崎市
⑪	兵庫県 加古川市
⑫	和歌山県 すさみ町
⑬	熊本県 荒尾市

R5ハンズオン支援地区（2地区）

先進事例等の知見を有した国土交通省職員が
コンソーシアムの検討に対する助言や情報提供
等の支援（ハンズオン支援）。

a	京都府 精華町・木津川市
b	兵庫県 三木市



R4までの支援

スマートシティ実装化支援事業
（先行モデルプロジェクト）
（重点
全国の牽引役となる先進的なプロジェクトとし早期の事業
で、実証実験を推進する）

1	北海道 札幌市	1	北海道 札幌市
2	秋田県 仙北市	2	宮城県 仙台市
3	福島県 会津若松市	3	福島県 会津若松市
4	茨城県 つば市	4	茨城県 つば市
5	栃木県 宇都宮市	5	茨城県 つば市
6	埼玉県 さいたま市	6	群馬県 前橋市
7	埼玉県 熊谷市	7	東京都 東村山市
8	埼玉県 毛呂山町	8	神奈川県 横浜市の
9	千葉県 柏市	9	神奈川県 川崎市の
10	東京都 千代田区	10	神奈川県 横浜市の
11	東京都 港区	11	福井県 永平寺町
12	東京都 江東区	12	岐阜県 岐阜市の
13	東京都 大田区	13	三重県 志摩市の
14	新潟県 新潟市の	14	三重県 多気町・大台町・明和町・ 度会町・大紀町・紀北町の
15	石川県 加賀市の	15	大阪府 河内長野市の
16	岐阜県 岐阜市の	16	大阪府 豊能町の
17	静岡県 熱海市・下田市の	17	岡山県 岡山市の
18	静岡県 藤枝市の	18	広島県 呉市の
19	愛知県 岡崎市の	19	広島県 福山市の
20	愛知県 春日井市の	20	徳島県 美波町の
21	京都府 精華町・木津川市の	21	香川県 高松市の
22	大阪府 大田市の	22	愛媛県 新居町の
23	兵庫県 加古川市の	23	福岡県 福岡市の
24	和歌山県 すさみ町の	24	長崎県 長崎市の
25	鳥取県 倉吉市の	25	宮崎県 延岡市の
26	広島県 三田市の		
27	愛媛県 松山市の		
28	熊本県 荒尾市の		

13地区の先進的なスマートシティプロジェクトの支援を決定 ～令和5年度スマートシティ実装化支援事業の選定～

先進的技術や官民データを活用し、まちの課題を解決し、新たな価値を創出するため、都市活動や都市インフラの管理及び活用を高度化する「スマートシティ」の実装に向けて、令和元年度から各地区のスマートシティに関する取り組みを支援してきました。

この度、内閣府・総務省・経済産業省・国土交通省が連携し、合同公募・審査を行い、先進的な都市サービスの実装化に向けて取り組む13地区の実証事業の支援を決定しました。

今年度からは、早期にまちへの実装を目指す取組等を行う先進地区を対象とした「都市サービス実装タイプ」を創設し、重点的な支援を実施します。

令和7年度 国交省スマートシティ実装化支援事業概要

■導入するサービスの概要

キーコンセプト

中央通りにおけるデジタル時空間（ストック）マネジメント

①利活用空間活性化ツールの構築

利活用空間の様々なデータをポータルサイトとデジタルサイネージで情報発信するデータ可視化サービス

②四日市版MaaSの構築

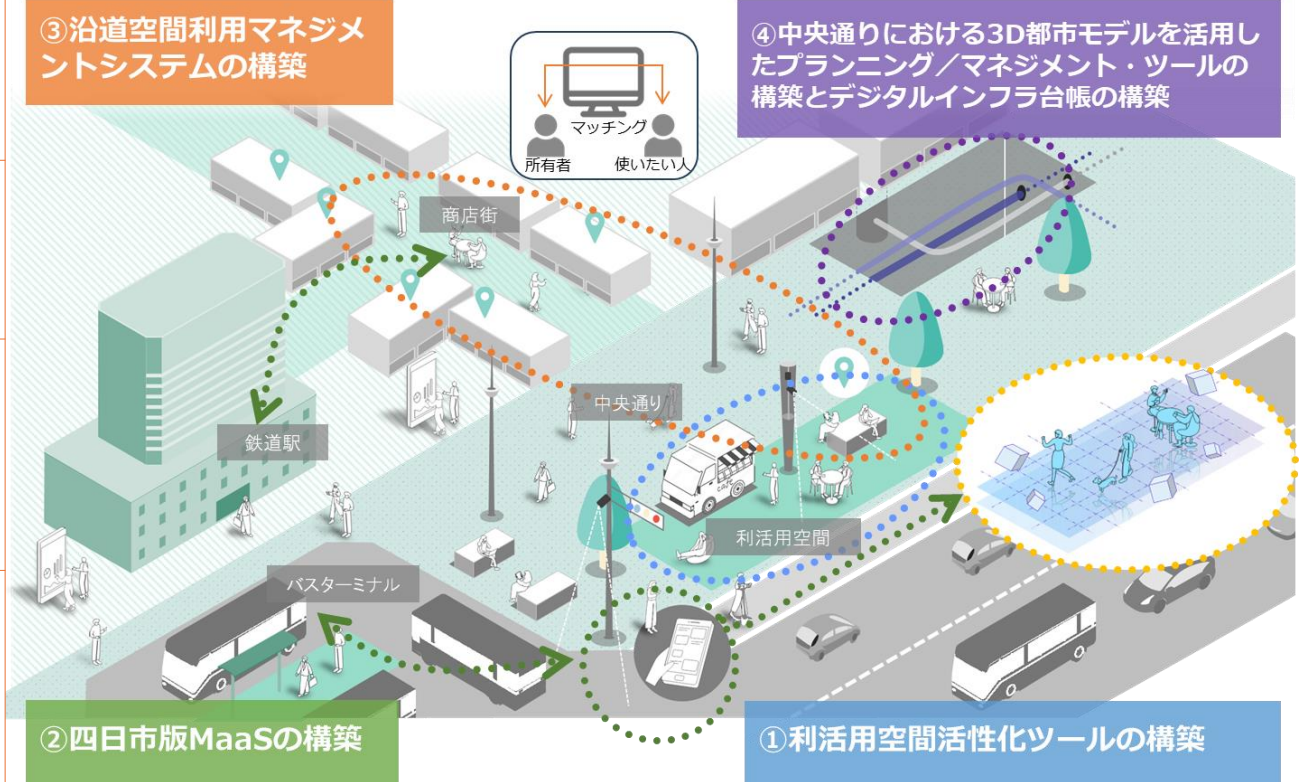
交通結節点を中心とした公共交通と新たなモビリティとの連携や、商店街と連携してまち歩きを促進するサービス

③バーチャル空間におけるコミュニケーション・ツールの構築

3D都市モデルを活用し、オープンスペース及び周辺の未利用の土地・建物などを使いたい人と使ってほしい人をマッチングする「沿道空間利用マネジメントシステム」

④中央通りにおける3D都市モデルを活用したプランニング／マネジメント・ツールの構築

新旧インフラの効率的な維持管理、災害時対応の迅速化、沿道土地利用の促進のため、3D都市モデルを活用した地下埋設物のデジタルインフラ台帳



四日市におけるスマートシティ（サービス）のイメージ

実証したい事項

- ・ 持続的な運営のためのデータ提供方法について実証
- ・ データ可視化サービスに災害時情報伝達機能を追加し、災害時情報のオープン化および適切な災害情報伝達方法を実証

■実証の概要

	事業① 利活用空間活性化ツールの構築	事業② 四日市版MaaSの構築	事業④ 中央通りにおける3D都市モデルを活用したプランニング／マネジメント・ツールの構築（デジタルインフラ台帳の構築）
実証したい事項	・持続的な運営のためのデータ提供方法について実証 ・データ可視化サービスに災害時情報伝達機能を追加し、災害時情報のオープン化および適切な災害情報伝達方法を実証	・MaaSデータダッシュボードの有用性に関する実証 ・各種情報（駐車場満空情報・駐輪場・店舗・公共施設情報）の拡大による利用者数増加	・持続可能なデジタルインフラ台帳の運用に必要な体制・ルールの実証 ・ARソフトを活用したデジタルインフラ台帳ユースケースの有用性の検証、災害発生時の有用性の検証
実証方法	1）利活用空間利用者等に対するデータ提供実証実験を実施 蓄積された人流および混雑度のデータをパッケージとしてどのように提供するのかを検討した上で、出店事業者等へデータ提供を行い、有用性やデータ可視化サービスの価格設定についてアンケートを実施する。 2）防災訓練と連携した災害情報コンテンツ効果検証を実施 防災訓練と協力して、発災直後の災害情報コンテンツを自動で提供し、市民や事業者へオープンデータ化された災害情報の優位性を周知する。また、事業者においては、事業者保有のサイネージとの連携方法についてAPIなどの案内を行い、事業者保有サイネージとの親和性や連携手順についての課題をアンケートを実施し抽出する。	MaaSデータダッシュボードの有用性に関する実証 四日市データプラットフォームと連携したMaaSに関するデータを、分析・可視化するダッシュボードを構築し、想定ユーザーに利用調査を行う。試行後、ユーザーインターフェースや継続利用性についてのアンケートを行い、その有用性を検証する。 既存情報（駐車場）の拡充と新規情報（駐輪場・店舗・公共施設情報）の追加による四日市スマートシティポータルサイトへのアクセス数増加を検証 駐車場満空情報を提供する駐車場数の追加を行うとともに、駐輪場、地域の店舗、公共施設（ベンチ・バリアフリー施設等）の新規情報を追加し、四日市スマートシティポータルサイト内に構築した四日市デジタルマップへのアクセス数の増加傾向を検証する。	1）全線モデルを用いたモデル変更に関する運用体制・ルールの試行、アンケートを実施 全線モデルを用いて、モデル変更・更新作業について運用体制・ルールの試行を行う。（更新作業を最低3回以上）その上で、各関係者の使い勝手（主にデータの管理・やり取りの使い勝手・運用の手間（コスト））についてアンケートを実施する。 2）ARソフトを活用した現場確認実験を実施 実際に進む工事の中で、発注者・設計者・施工者・地下埋設事業者を対象にARソフトを活用した現場確認実験を実施し、各関係者にアンケートを実施し、メリット・デメリットを整理する。併せて、埋設物破損事故防止効果・災害復旧時の機能回復の迅速化等についてのアンケートを行う。
実証後の効果検証	1）⇒データ可視化サービスにおけるデータ提供方法、料金設定等を明確化し、実装につなげる。 2）⇒アンケートによって得られたデータから事業者保有サイネージとの親和性やオープンデータAPI連携手順についての課題を抽出、分析を行い、実空間の発信拠点を増やすことを目指す。	1）⇒四日市データプラットフォームに連携したMaaSデータを分析・可視化するMaaSデータダッシュボードを構築し、実装後のPDCAサイクルの円滑化を目指す。 2）⇒既存情報の拡充と新規情報の構築による四日市デジタルマップのアクセス数の増加傾向を計測し、実装後のサービス利用者数の増加に繋げていく。	1）⇒全線モデルでの運用体制・ルールの試行を通じて運用体制・ルールの検証を実施し、その結果を最終運用体制・ルールに反映する。 2）⇒ARソフト活用による有用性、災害復旧時の有用性を検証するとともに、更なる活用メリットについて、引き続き検討を行う。

中央通りの再開発に伴い新規事業者の進出、来街者の増加に伴い令和7年度は2つの取り組みを行う。

取り組み

①

「利活用空間利用者等に対するデータ提供実証実験を実施」

不動産業界など人流データ提供の需要が高いと思われる業種へサウンディング調査やヒアリング調査を行い実装に向け提供方法や料金設定等を明確化し実装につなげる。

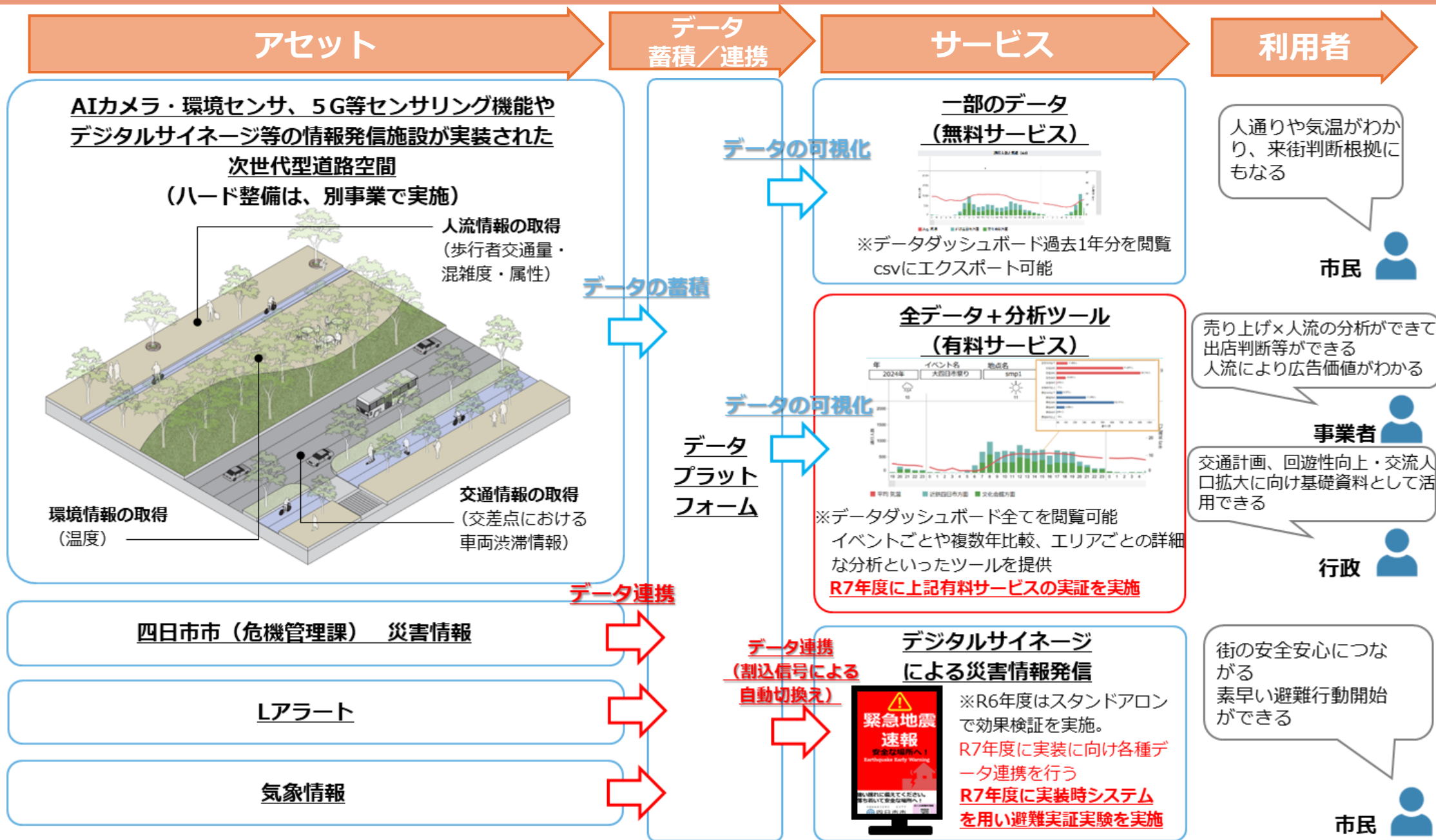
取り組み

②

「災害情報コンテンツ効果検証を実施」

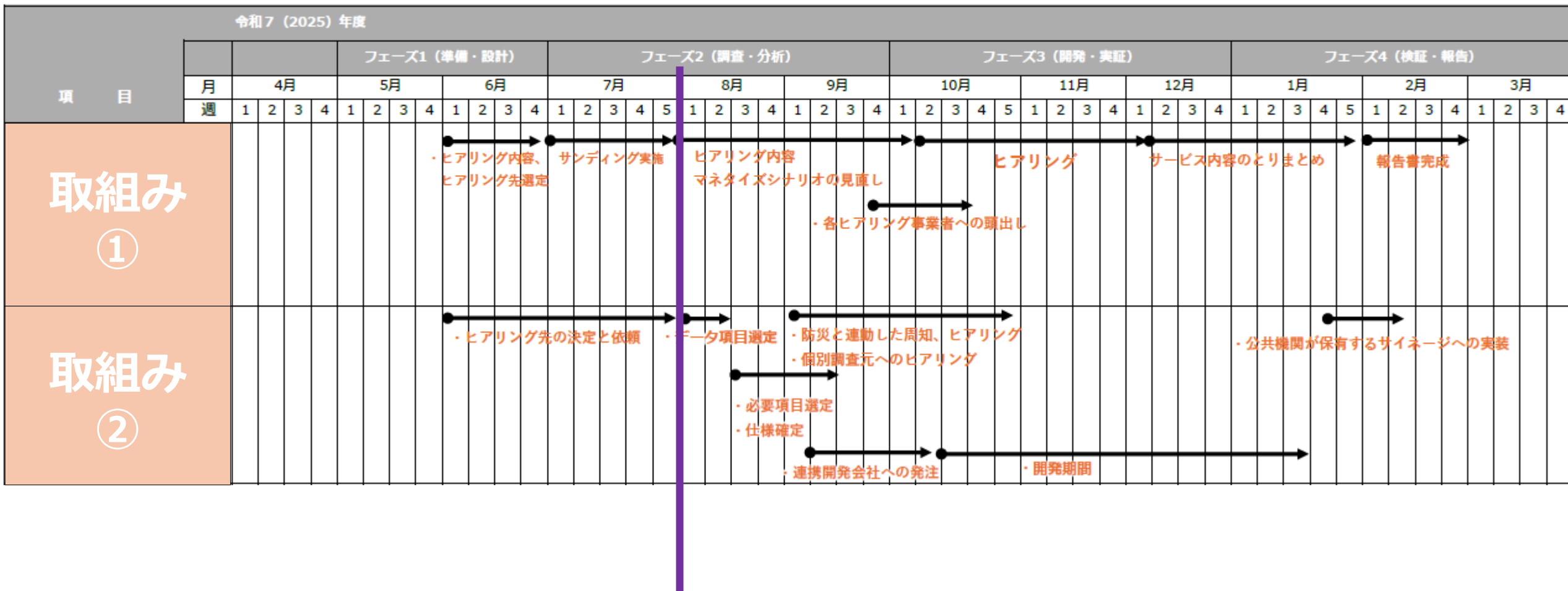
津波警報などの緊急災害情報を四日市データプラットフォームと連携する。
緊急時には市民公園サイネージに緊急情報を割込みアナウンスを行い、
来街者の安心安全な中央通りにつなげる。

令和7年度 利活用空間活性化ツールの構築 全体サービスイメージ



令和7年度 利活用空間活性化ツールの構築 スケジュール

【事業①】（利活用空間活性化ツールの構築）



取組み① データ可視化サービス実装に向けた市場調査

サウンディング

令和7年7月3日 地域の不動産業界へのサウンディング調査結果

調査結果

不動産業におけるデータ利活用についてヒアリングを実施。
オフィビルを新しく建てた主な需要として大手企業に関連する会社のオフィスビル需要が主な目的とのこと。

不動産業についてはCBREが提供する不動産データを参考にすることがあるとのこと。
こちらのデータは広域の不動産に特化したデータを扱っており周辺の賃貸データ、取引価格、団地の戸数、住人の年代、中古物件の売り上げデータ等の提供を受けているとのこと。（月額5～10万）

不動産業に関しては、小さな範囲ではなくより広域の人流データが必要とのこと。

CBRE：世界最大級の事業用不動産サービスおよび投資顧問会社
<https://www.cbre.co.jp/>

マネタイズについて

マネタイズに関しては明言は避けられておりましたが、人流については、カフェチェーン店の誘致など出店時に人流の明確な基準を持っており、予め人流データを提示できれば決着も早くなり不動産についても活用できる可能性があるとのこと。中央通り関連ビルも誘致をしていたが人流調査の結果、基準に満たなかったとのこと。また、美容室など看板などを設置する場合、人流は気にされており駅西に若い人が集まっているなどデータがあれば、そこに看板を出す提案ができる可能性があるとのこと。

WGのアジェンダ

No	議事内容	配分	経過
1	ご挨拶 四日市市 デジタル戦略課 行政DX推進室 吉田室長様	3:00	0:00
2	新会員及び新アドバイザーのご紹介	10:00	3:00
3	過年度の振り返り（令和3年度～令和6年度）	10:00	13:00
4	令和7年度 国交省スマートシティ実装化支援事業概要	10:00	23:00
5	令和7年度のWG活動	15:00	33:00
6	このほか	2:00	48:00
			50:00

データプラットフォームWG 参加団体

データプラットフォームWG参加企業	位置づけ
近鉄グループホールディングス 株式会社	
近畿日本鉄道 株式会社	
三岐鉄道 株式会社	
株式会社 三十三銀行	
株式会社 シー・ティー・ワイ	代表企業
株式会社 日建設計	
株式会社 FIXER	
株式会社 VACAN	
富士通Japan 株式会社	
株式会社マクニカ	
三重交通 株式会社	
四日市商工会議所	
国立大学法人三重大学 村田 博司	アドバイザー
国立大学法人三重大学 中村 孝夫	アドバイザー
四日市市	事務局
株式会社 日建設計総合研究所	事務局補佐

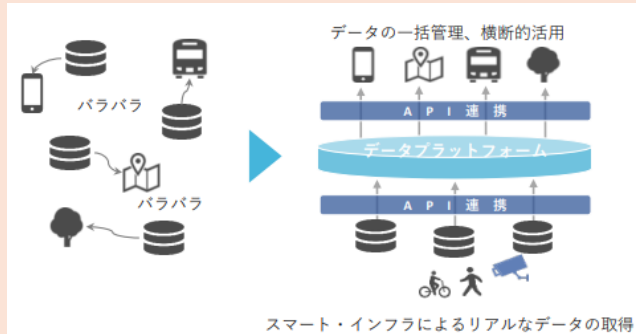
データプラットフォームWG
国交省スマートシティ実装化支援事業概要
過年度振り返り



- ・四日市スマートリージョン・コア推進協議会の組織内にデータプラットフォームWGを発足。
- ・四日市スマートリージョン・コア実行計画に定める事業（主にデータ利活用について）の検討を行っていく。



- ・四日市スマートリージョン・コア実行計画内に官民連携で利用でき、いつでも見える化、段階的に拡張などを踏まえた、データプラットフォームの整備および活用方針を定めた。
- ・令和4年度に四日市市データプラットフォーム構築。
(構築主体：四日市市)

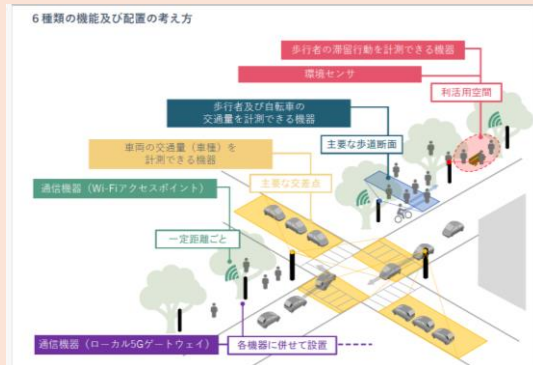


四日市市データプラットフォーム構築

- データの横断的な活用が可能となることから、市としては政策立案、民間企業等としては新たな事業展開やサービス開発に活用することが可能

スマート・インフラについて協議

- 中央通りの先行整備区間（西二工区）へ整備をするスマート・インフラについて協議
- 賑わい創出社会実験 はじまりの市などでの実証を繰り返し、優先導入機能の検討を実施



地域の大学・団体とワークショップ開催

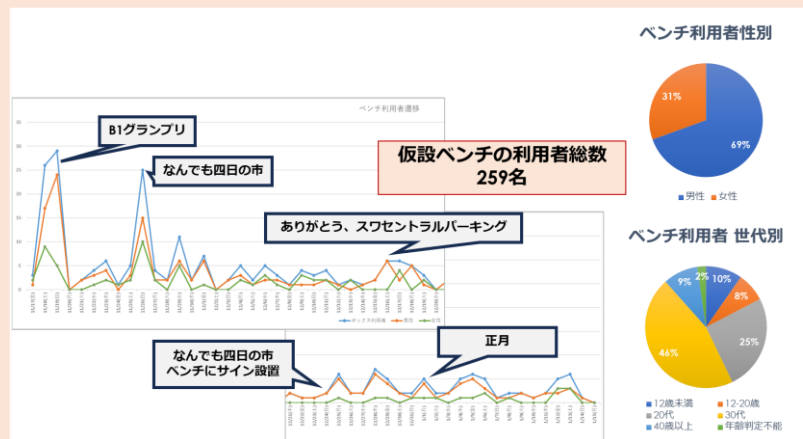
- データプラットフォームWGメンバーと、市内の大学、地域組織と連携してワークショップを開催。
- 中央通りの現状の課題と将来の理想の姿について意見出しを実施。





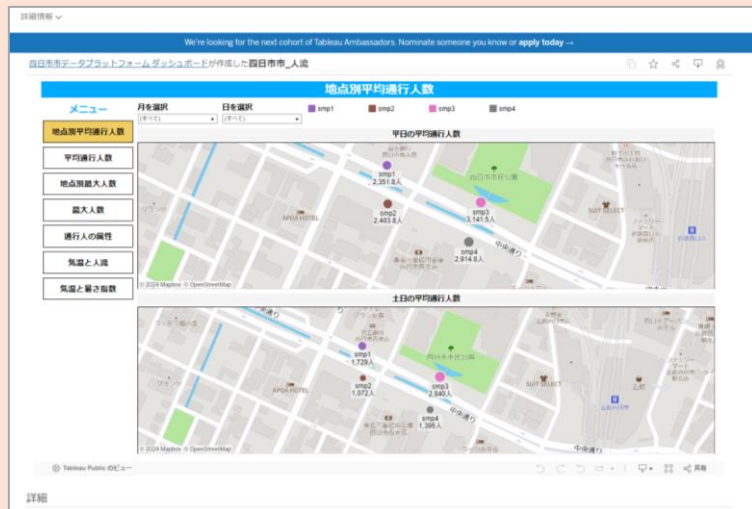
アイデアソン開催（四日市市主催）

- ・ まちの課題やその解決の姿の意見を出しあう四日市市アイデアソンを開催。地域の商業者や高校生、大学生などが参加。
- ・ 課題の解決のために必要なデータの検討などもあわせて実施。
- ・ アイデアソンで出たアイデアをもとに、令和6年度は、ハッカソンを開催予定。



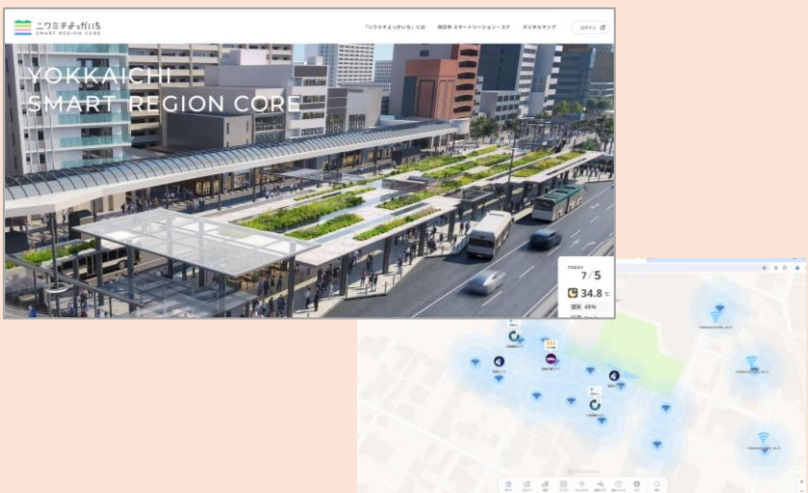
地域団体とデータ収集／分析

- ・ 官民連携で街の未来について検討する四日市エリアプラットフォームと連動し、市内の一部の商店街で、来場者の人流／属性データの取得を実施。
- ・ 商店街内での滞留者の現状分析、商店街内に整備したコンテナハウス、キッチンカー等へ誘致する出店事業者などの検討などに活用



データ分析ツールのデータプラットフォーム ダッシュボード構築 (四日市市 構築)

- ・取得したデータの分析のためのダッシュボードを構築
- ・中央通り西二工区に、IoTセンサー AIカメラ（人流・車両）、環境センサー・Wi-Fiを整備
- ・データの集計結果を数値、グラフなどで表示



スマートリージョンコアの情報発信 (四日市市 構築)

- ・四日市スマートリージョン・コア実行計画の進捗まちの取り組み（ショップ・イベント等）を紹介するポータルサイトを構築
- ・官民連携での活用、発信を目指し取り組んでいく。
- ・市民に分かりやすくデータを確認してもらうため、四日市市デジタルマップ内に、データを視覚化し、今後、市民への理解を深めていく。



ハッカソン開催 (四日市市主催)

- ・ 高校生以上の個人、チームを対象にまちなかの課題からアイデア、ハッカソンを開催、6チームが参加。
- ・ 最優秀賞チームのアプリをニワミチスポットてらすで社会実験を実施。キッチンカー出店者に利用してもらいアンケート調査などを実施した。

データプラットフォームWG メンバーでワークショップ開催

- ・ 四日市スマートリージョンコア実行計画の達成を目的にWG内で「**商店街**」「**市民公園**」をテーマにワークショップを開催
- ・ ワークショップで出たアイデアをもとに、地域の主要なメンバーにヒアリングを行った



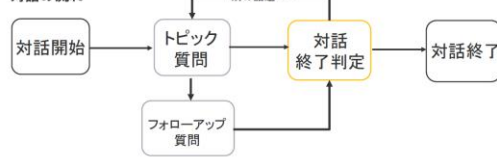
選好の獲得

選好情報は以下のパラメータで指定し、対話生成時に獲得する

- ・ type:「好きな場所」、「交通手段」など質問に応じた各トピック
- ・ value:「〇〇区図書館」、「〇〇公園」などカテゴリの具体的な内容
- ・ detail:「子供をよく連れていく」や「よく散歩に訪れる」などの選好の詳細
- ・ polarity: 選好についての感情を-1.0 ~ +1.0 の範囲で表現
- ・ evaluation: polarity をその値に設定した理由

選好情報が指定の数集まったらインタビューを終了し、次段階に移行する

対話の流れ



名古屋工業大学 四日市市のオープンデータ等を活用し実験

- ・ 名古屋工業大学が四日市市のオープンデータ・地域情報サイト（ホームページ）を活用した研究を実施
- ・ 対話形式によってユーザーの趣味趣向を把握し、そのユーザーに適した回答（おススメのお店やイベント等）する実験が行われた



災害時を想定した即時的な情報提供を行う情報伝達実験

- ・コンテンツの見栄えの精度向上と避難場所までの市民のスマホを利用した情報伝達実験を行った。



人流、車両交通量を現在と過去を比較するためのダッシュボードメニューを追加

- ・過去と現在の人流比較など、人流や交通量などを時間軸で比較できるダッシュボードを追加した。



市民公園にサイネージを整備

- ・R7年2月の市民公園リニューアルに合わせてサイネージを整備した。
- ・サイネージコンテンツの視聴者属性を取得するためのAIカメラも整備した。
- ・来街者へタイムリーな情報発信ができるようデータ利活用を進めていく。

モビリティWG/分科会 実施報告（令和6・7年度）

第11回WG 令和6年12月6日（金）

- R6年度自動運転実証実験の結果共有
- R6年度四日市版MaaS事業の結果共有
- 意見交換

・主に令和6年度の実証実験の結果共有と振り返り、及び今後に関する議論を実施

第12回WG 令和7年3月25日（火）

- R6年度四日市版MaaS事業の結果共有
- R7年度四日市版MaaS実施内容
- MaaSダッシュボードについて
- 意見交換

・令和6年度の四日市版MaaS事業の実証実験の結果共有と振り返り、及び令和7年度四日市版MaaS事業に関する議論を実施

第13回WG 令和7年7月29日（火）

- R7年自動運転実証実験について
- R7年度四日市版MaaS構築事業について
- 対外活動について
- 意見交換

・令和7年度の自動運転実証実験及び四日市版MaaS事業の方針共有、および今後に関する議論を実施

モビリティWG 実施報告

第13回モビリティWG 令和7年7月29日（火）

◆ R7年度自動運転実証実験の方針共有

- R6年度までの賑わい検証の側面から、R7年度は技術的な検証をメインに実施

R6年度

車 両 | 自動運転バス（ARMA 1台 EVO 1台）
期 間 | 19日間（11月6日～11月27日(月曜日を除く)）
ル ー ト | 近鉄四日市駅西側
ユマニテックプラザ～文化会館～市民公園



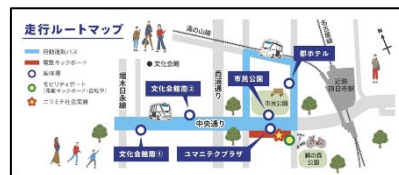
Navya製
左：ARMA 右：EVO



電動キックボードの
試乗会も併せて実施(9日間)



AIコンシェルジュ



R6年度ルートマップ

R7年度

車 両 | 自動運転バス（EVO 1台）
期 間 | 12月頃を予定
ル ー ト | 調整中
近鉄四日市駅～JR四日市駅側を予定。
次年度以降のL4認可検証に向けたルートとして検討中



Navya社製 EVO

第13回モビリティWG 令和7年7月29日（火）

◆ R6年度四日市版MaaS事業の結果共有

- ・ R6年度の実証実験から「システム利用者数」と「データ利活用」の点について課題を抽出

課題

システム利用者数

- ✓ 設定したKPIに対して利用者数が未達
(300名の目標に対して170名の利用者)



対策

システムの機能向上

- ✓ 四日市デジタルマップでの掲載情報の拡大
や新規機能の搭載により利用価値を向上

対策

周知活動の実施

- ✓ 市内外在住場所を問わず周知活動を行う
ことにより認知度獲得し、利用促進へ

課題

データの利活用

- ✓ 四日市データプラットフォームに連携し
たデータの利活用ができていない



対策

MaaSデータダッシュボードの構築

- ✓ 分析・可視化されたダッシュボードを構
築することにより、実装後のPDCAサイク
ルを円滑に

第13回モビリティWG 令和7年7月29日（火）

◆ R7年度四日市版MaaS事業の方針共有

- 四日市版MaaS（Phase-1）の最終検証と実装を実施
- 交通に関する潜在的なニーズや地域課題をデータから発見でき、PDCAの円滑化を期待

※スマートシティ実装化支援事業「事業①利活用空間活性化ツール」で構築した
四日市デジタルマップ及び四日市市データプラットフォームダッシュボードを利用

取り組み①

四日市版MaaS機能の拡充

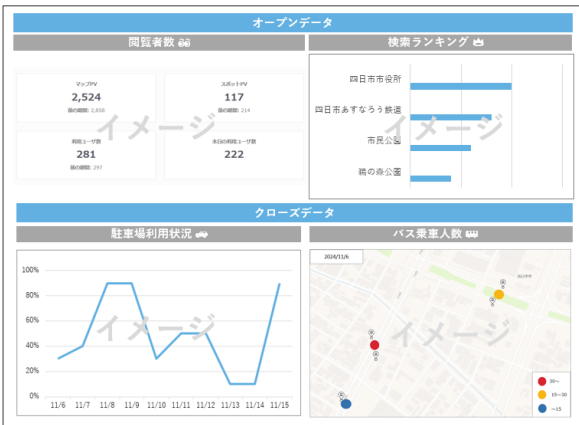
- 既存情報（駐車場）の拡充
- 新規情報（駐輪場・店舗・公共施設情報）



取り組み②

MaaSデータダッシュボードの構築

- 四日市デジタルマップ利用履歴
- 公共交通の運行状況の可視化
- 公共交通の乗降データの可視化
- 駐車場使用率の可視化



モビリティWG 実施報告

第13回モビリティWG 令和7年7月29日（火）

◆ R7年度四日市版MaaS事業のスケジュール共有

- ・ 四日市デジタルマップのアップデートを2025年9月1日に実施予定
- ・ 交通に関するデータを可視化するダッシュボードの構築を2025年10月1日に実施予定



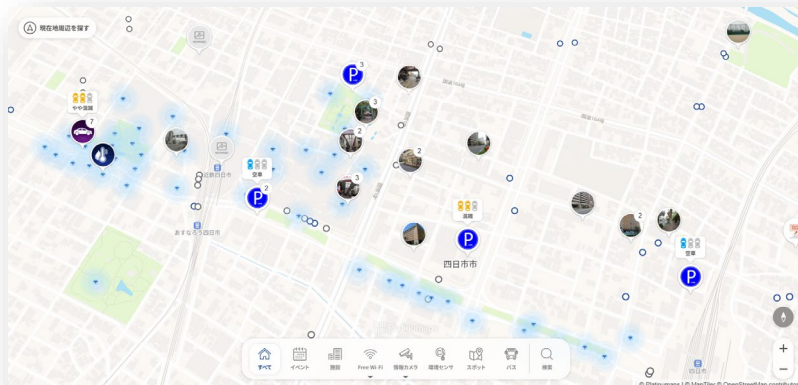
第13回モビリティWG 令和7年7月29日（火）

◆ R7年度四日市版MaaS事業の進捗共有

- ・ 四日市デジタルマップの拡充：関係各所と掲載内容を調整中
- ・ ダッシュボードの構築：関係各所と調整が完了したものから、画面デザインを調整中

四日市デジタルマップ

- ・ 駐車場：くすの木Pの情報連携済
- ・ 店舗：商店街と調整中
- ・ 駐輪場：データ収集完了済
- ・ ベンチ：データ収集中



MaaSデータダッシュボード

- ・ 画面デザインの決定後、構築作業を進める
 - ・ 四日市デジタルマップの利用実績
 - ・ 公共交通の乗降客数、運行状況
 - ・ 駐車場の使用率



第13回モビリティWG 令和7年7月29日（火）

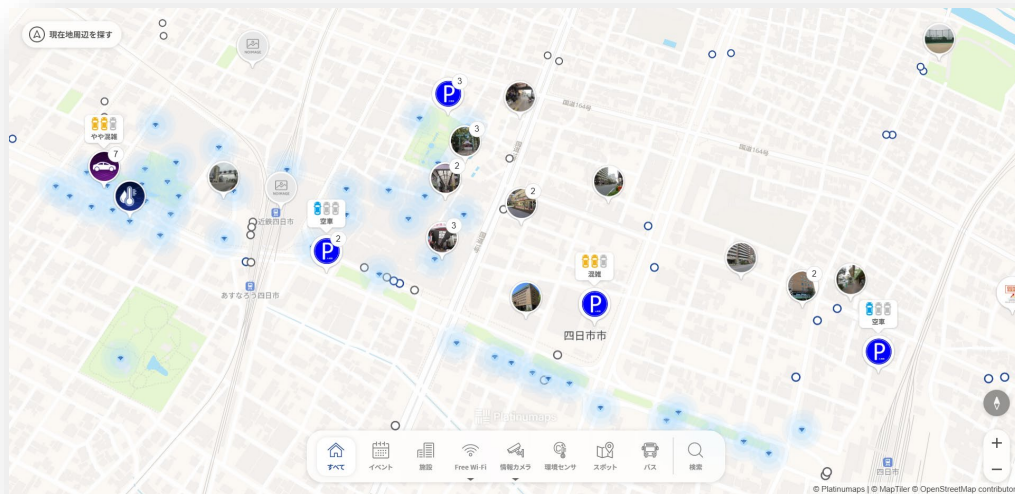
◆ 実装予定内容

1. 四日市デジタルマップ

- ・店舗やベンチといった目的地に関わる情報が閲覧可能
- ・駐輪場や駐車場、バス停時刻表といった移動に関わる情報が閲覧可能
- ・目的地までの経路探索、自動運転の予約システム、デジタルスタンプ（ポイント）ラリーなどの機能を要する

2. MaaSデータダッシュボード

- ・四日市デジタルマップに連携したデータを分析
- ・四日市デジタルマップ、公共交通、駐車場使用率に関わるダッシュボードを構築



R7年度に実装される機能の検証を行い、R8年度以降の在り方の検討を進める

モビリティWG 実施報告

第13回モビリティWG 令和7年7月29日（火）

◆ 対外活動について

- ・ 四日市大学にて、四日市市でのまちづくり活動の講義を実施

講義日：2025年6月18日（水）1限
講義タイトル：「都市計画論」
対象受講人数：約40名



講義日：2025年7月11日（金）2限
講義タイトル：「四日市学」
対象受講人数：約180名



令和6年度第3回幹事会での議論について

◆ R6年度第3回幹事会での議論

みなとまちづくり協議会で実施する港でのイベントとの連携を検討

- ・ 四日市デジタルマップ上に「BAURAミーティング」のイベント情報掲載を実施予定
- ・ R8年度以降も港を含めた中央通りの回遊性向上に向けた取り組みを検討



令和7年度四日市スマートリージョン・コア推進協議会 第1回幹事会
出席者名簿

別添1

8月7日(木) 10:00~12:00
四日市商工会議所 3階 大会議室(オンライン併用)

	区分	所 属	氏 名	出欠	随 行	現地/オンライン
幹事会 役員	有識者	東京大学 大学院 工学系研究科 教授	村山 顕人	○		オンライン
		名城大学理工学部 社会基盤デザイン工学科 教授	松本 幸正	○		オンライン
		早稲田大学 理工学術院 教授	有賀 隆	○		オンライン
	交通 関係者	近畿日本鉄道(株) 鉄道本部 名古屋統括部 施設部長	三重 和宣	代理出席 名古屋統括部施設部工務課 主査 樋口 竜也		オンライン
		三重交通(株) 取締役	高田 和昭	○	企画部 部長 小瀬古 恵則 (現地)	現地
		三岐鉄道(株) 自動車部 運行管理課 課長	伊藤 真郷	○		現地
		(三重県タクシー協会北勢支部) (株)三交タクシー 代表取締役社長	内山 宣哉	欠席		-
	商工関係者 大規模権利者 事業展開企業	学校法人みえ大橋学園 理事長	大橋 正行	欠席		-
		(株)近鉄百貨店 四日市店 営業推進部 マネージャー	木室 康弘	○		オンライン
		四日市商工会議所 専務理事	山下 二三夫	代理出席 商工振興部長 秋田 和伸		現地
		(株)ディア四日市 代表取締役 社長	鈴木 主計	○		現地
		近鉄グループホールディングス(株) 総合政策本部 経営企画部 部長	切中 義憲	○	総合政策部 課長 井上 貴昭(オンライン)	現地
		近鉄不動産(株) 名古屋事業本部 賃貸事業部部長	吉田 健	○		オンライン
		(株)シー・ティー・ワイ 営業部 取締役部長	安達 勝也	○	営業部 営業課 担当課長 佐野貴規 (現地)	現地
		(株)三十三銀行 営業本部営業企画部 営業企画課 課長	臼井 智博	○	営業企画部営業企画課 三浦 大樹(オンライン)	現地
		中部電力(株) 事業創造本部 部長	黒木 信彦	欠席		-
	行政	国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所 副所長	伊藤 秀則	○		オンライン
		三重県 県土整備部 都市政策課 副課長	雲匠 司	○	都市政策課市街地整備班 奥村未来 (オンライン)	オンライン
		四日市市 副市長	荒木 秀訓	○		現地
賛助会員		(株)日建設計 都市・社会基盤部門 部長	中村 出	○		現地
		早稲田大学建築学科 講師	小松 萌	○		現地
		(株)マクニカ スマートモビリティ事業推進部 部長	福田 泰之	○	スマートモビリティ事業推進部 奈良岡 龍一 (現地)	現地
オブザー バー	行政	国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路交通施設安全対策官	高濱 康巨	○		オンライン
		国土交通省 都市局 都市計画課 都市計画調査室 係長	櫻林 哲也	○		オンライン
		国土交通省 中部地方整備局 建政部 都市整備課 課長	後藤 直紀	○		オンライン
		国土交通省 中部運輸局 交通政策部 交通企画課長	江川 晃平	○		オンライン
		国土交通省 中部運輸局 三重運輸支局 首席運輸企画専門官	森 慶之	○		現地

事務局	行政	四日市市 政策推進部	部長 川口 純史
		四日市市 政策推進部 政策推進課	課長 矢澤 賢太郎
		四日市市 危機管理統括部 危機管理課	課長 芝田 茂
		四日市市 シティプロモーション部 観光交流課	課長 大橋 剛
		四日市市 商工農水部 商業労政課	課長 秦 昌洋
		四日市市 商工農水部 工業振興課	課長 釜淵俊之
		四日市市 環境部 環境政策課	課長補佐 米田 史郎
		四日市市 総務部 デジタル戦略課 行政DX推進室	室長 古田純平
		四日市市 都市整備部 都市計画課	課長 蟹江 伸次郎
		四日市市 都市整備部 都市計画課	公共交通推進室長 藤田 貴
		四日市市 都市整備部 都市計画課	副参事・計画GL 橋本 幹人
		四日市市 都市整備部 市街地整備課	課長 戸本 直弥
		四日市市 都市整備部 市街地整備課	副参事兼課長補佐 伊藤 直人

※オンライン

